京城日報

六日夕刊

發行所 京城太平通一丁目 合資會社 京城日報社
發行兼編輯人 奥田直毅
印刷人 小川三之介

○五日の對支交渉

五日の鄭家屯交渉は午後四時より開始林公使は警察署設置其の他未だ相方一致し居らざる問題につき日本政府最後の意志を述べ支那側の之に對する回答を求めたり伍外交總長は國務院會議に諮り何分の回答をなすべきを約せり(北京特電)

○聯合國條件を提示せん

米國大統領ウイルソン氏に對する回答に於て聯合國は講和條件及彼等が此の商議に應ずべき唯一の準備條件を提示すべし(倫敦電報)

○條件提出と米國官憲

華盛頓來電に依ればアンドラッシー伯が聯合國はウイルソン氏を經て獨逸の講和條件を知り得べしと陳述したりと云ふに對し又た駐獨米國大使ゼラード氏が講和條件を米國政府に打電したりとの報道に就き米國官憲は一様に沈默を守りて何等の評論をも試みず(紐育電報)

○米大統領の方針

ウイルソン大統領は聯合國の回答を見たる上更に行動すべき方針なりと又た目下國務省と白聖館とが活動せるためウイルソン大統領は同回答の内示を既に受けたりとも評判せらる(桑港電報)

○ロッヂ氏の反對論

米國議會に於てロッヂ氏はウイルソン大統領の講和覺書に反對して曰く議會の全然關知せざる講和交渉の渦中に投ずるは暴擧なりと(紐育電報)

○對獨回答と獨墺の新聞

獨墺國の新聞紙は聯合國の對獨回答に對して戰慄すべき事變今や起るべしと脅かしつゝ盛んに激怒の情を表はし同回答に甚辛辣傲慢なる字句を記載しありて全然講和を無視するものなりと記し居れり(倫敦電報)

●土地調査事業の進行

總務課長　和田一郎氏談

土地調査事業は明治四十三年三月其の緒を解き二千四十萬六千四百餘圓の經費と八年十箇月の時日とを費やし朝鮮各道並に主たる島嶼の土地所有權を査定して地籍圖及地形圖の完成を期せむとするものなり而して茲に既往の經過を顧みれば業務は逐年順調の歩武を進め全程に對し今や二年を剩すに至る其の進行の現況如左

▲三角測量　大三角測量の基準となるべき基線測量は全道に渉り十三箇所を選定して大正三年三月之を終了し大三角本點測量は後るゝこと一年にして四百點を完結したり又水準測量一千六百三十九點大三角補點測量二千四百一點、小三角測量三萬一千六百四十六點は大正五年三月乃至七月相踵で終了したり

▲地形測量　地形圖は京城外四十四箇所を一萬分一圖とし更に京城、仁川外十二箇所に二萬五千分一圖を作り全道に對しては五萬分一圖とし別に金剛山、慶州、扶餘、開城は一般探勝の便を圖り特殊地形圖發行の計畫とす其の測量を終へ原圖を作製したる廣袤は九千百八十八方里にして全計畫に對し六割五分の進程を示せり

▲準備調査　一筆地調査の準備業務として調査の先驅を爲す準備調査は朝鮮全道十二府二百十八郡二島に渉り二千九百五十二面に涉する二萬八千三百十五洞の洞界調査と五百十八萬九千九百五通の土地申告書收集とを修了し大正五年五月之を完結したり

▲圖根測量　細部測圖の方位を指導する圖根點は三百五十五萬一千六百六十四點を配置し大正五年八月を以て之が測量を完了せり

▲細部測圖　一筆地の所有權を調査し兼て地貌を測圖する細部測圖の進行は大正五年十一月實地の作業を修了す即全道の調査筆數一千九百十萬二千四百二十六筆に達し計畫上の豫定筆數を超過すること六十五萬八百十九筆に及べり

▲地位等級調査　一筆地調査の進行を逐ふて地位收穫を調査し土地の等級を詮定するものにして其の進程は京畿、忠清、全羅、慶尚の各道を終へ目下平安、江原、咸鏡諸道に渉れり其の既了府郡は十二府、十六市街地、百五十六郡、二島にして功程の累計は一千五百九十三萬五千二百二十五筆即全計畫筆數の八割六分に達したり

▲紛爭地調査　紛爭地調査の受理件數は二萬三千二百十二件此の關係土地筆數八萬九千百六十七筆内調査濟のもの二萬一千四百五件七萬八千四百九十筆にして結了地方は京畿、忠南、慶北、全北の全部及び全南の大部分を終へ目下慶南、忠北に渉れり

▲面積計算　原圖上に於ける面積計算作業は京畿、忠清、全羅、慶尚の各道を終了し黄海、江原、平安の諸道に從事せり其の既了に屬するものは十二府、十六市街地、百五十四郡、二島此の筆數一千六百五萬七千六百一筆即ち全程に對する八割七分とす

▲製圖　地籍圖の作製を終へたるは十二府、十六市街地、百四十三郡二島にして其の地方は面積計算の順位に追随し進行面數一千四百七…十五萬五千九百五十二筆は作業全程の八割一分に相當せり

▲異動地整理　土地申告査定公示迄に生じたる土地の異動に對し其の公示後之が整理に着手す既に十二府、十六市街地、百十七郡、二島を終了し其の筆數百四十五萬八千九百七筆即ち豫定の全計畫に對し五割五分を進捗せり

▲簿書調製　簿書の種別は土地調査簿、土地臺帳、並に集計簿及地税名寄帳にして此の豫定三十萬五千七百八十五册に達すべく其の調製の現況を擧ぐれば土地調査簿は十二府、十六市街地、百四十七郡二島を終り一千四百九十三萬二千二十五筆即全功程の八割一分に達し土地臺帳は土地調査簿の調製に對し六郡を後れ一千四百六十三萬七千八百三十三筆此の進程歩合七割九分に在り

▲査定及引繼　叙上各種の作業を終るに隨ひ地方土地調査委員會に諮問し土地所有權の査定を公示したる十二府、十六市街地、百二十二郡、二島の筆數は一千二百八十二萬五千八百二十一筆にして進程歩合七割こす又査定後異動整理を遂げて所轄府郡島に土地臺帳及地籍圖の引繼を了したるは十二府十六市街地、百二郡、二島即ち査定既了引繼未濟に係る二十郡の筆數を控除すれば一千七十二萬四千十七筆全計畫に對する五割八分の土地調査を遂捗したるものと謂べし

以上の進程は開局以來の累計なるが以て之を現在の進捗力に比すれば其の進捗甚だ軒輊あり故に本事業は殘餘の期間短縮せるにも拘らず大正七年六月を以て成果全部の引繼を完了し得べく

十二月を以て事業の完結を見るに至るべし

今や府郡島に在ては調査圖簿の引繼に伴ひ土地臺帳規則を施行し不動産登記令に基き所有權の保存、移轉等を確認し地税は漸く從來の賦課法を存續すと雖朝鮮全土に涉る土地調査完了し圖簿の引繼を終ば地税名寄帳に依て齊一に課税の實施を見に至るべく一面に於て査定不服の申立に因り高等土地調査委員會の審理は大正元年開會以來一萬一千百六十八件に達し審理件數六千八百五十件未濟四千三百十八件を示せりと雖も部門を分ち會數を遞加せるを以て是亦事業終了と前後して完結を見るべく茲に於て地籍の明確、所有權の範圍を實現し地税賦課の衡平を期し行政の基礎を確立して多年の積弊を一掃し財政の運用を圓滿ならしめ延て産業開發上土地の利用を促進するの機運に到達すべきは蓋し信じて疑はざる所なりとなし

口政始御式

天皇陛下には豫て仰出されたる如く四日午前十時大元帥の御正裝にて宮中西一の間なる臨時内閣に臨御大正六年政始式を行はせられ寺内首相以下各國務大臣波多野宮相田尻會計檢査院長閣田登記總監閣列の上内閣書記官下條康麿氏御前に進み臨時神宮祭主久邇宮多嘉王殿下の上進に係る左記奏文を朗讀せり

宮内大臣正三位勳一等男爵波多野敬直奏ス
臨時神宮祭主白ス昨大正五年中恒例臨時諸祭典凡テ滯リナク遂ケ行ハセラレ候事
大正六年一月四日

陛下には立御の儘右の奏文を聞召され續いて寺内首相より奏上の各官廳の政務に　天裁を給ひ終つて入御茲に政始式を結了相成りたり(東京特電)

●總督邸晩餐會

長谷川總督は九日午後六時三十分より京城在任記者團を官邸に招待晩餐會を催す當總督府側よりは山縣政務總監宇佐美内務部長官古海警務總長屋高橋兩武官、荻田總務局長、山形大佐、齋藤、大島兩副官、遠藤、釉田兩秘書官等出席す可し

●陸軍觀兵式

陸軍觀兵式は八日午前十時より龍山練兵場に擧行京城衞戍司令官たる秋山大將閲兵了つて分列式を行ふ可し

●候補生見學

二日仁川入港の練習艦隊常磐八雲に分乘せる海軍少尉候補生九十三名准士官以下約四十名は四日午前入京候補生一同は直ちに總督に伺候し京城見學の上昌徳宮秘苑植物園博物館等を見學京城に一泊せるが愛國婦人會は候補生一同の爲め同夜原會旅館に於て午餐の饗應を受け午後朝鮮の落語其の他の餘興を寄贈慰勞の意を表せり一同は五日午前景福宮の見學を了へ午後退京したり

▲下士卒見學

仁川入港中なる練習艦乘組下士卒は四五日の兩日に分れ約六百五十名宛入京、景福宮昌徳宮を見學の上即日歸艦せり愛國婦人會は兩日とも驛會樓に於て一同に茶菓の饗應を爲し又た鐵道局は臨時列車を運轉せり

●練習艦隊拔錨

仁川港に碇泊中なりし練習艦隊常磐八雲の二艦は六日午前九時抽錨相踵みて仁川抜錨鎭海に航行せり同地には三週間滯在水雷發射大砲射擊演習を擧行の後舞鶴に向ふ筈なり

●東拓改制

東洋拓殖會社にては重役間に於て社内職制改正の件に付凝議中なりしが愈々左の如く決定總督府の認可を經て一日より之れを實施したり改正の要點は總務部所屬なりし殖民課を事業部(舊名殖産部)に移したると總裁直屬なりし檢査課を監査課と改め總務部に移屬せしめたる外他は名目の改正に過ぎず乃ち

總務部　庶務課、計算課、監査課
事業部　殖産課、殖民課、土木課
金融部　金融課、出納課
秘書室

而して部長は總務松平理事事業川上理事金融商瀨理事は故の如く課長秘書役に何等の異動なきも近く課長出張所長に若干の更迭を見るべし尚ほ同社職員は調査役技師參事書記補技手補に分れ居たるが一日より調査役書記補技手補を廢し參事技師書記技手の四階級に改め調査役は參事と改稱する事とせり

●鮮銀幹部異動

朝鮮銀行にては商瀨營業局長東拓理事に榮轉後缺員の儘なりしが營業局長の補缺并に石原東京支店助役辭職の結果左の如く一日附異動を行ひたり

營業局長の新任

營業局長兼支店課長　阿部秀太郎
(營業局支店課長)
秘書役兼營業局勤務　大原嵐夫
(秘書役前事)
營業局營業課長　井上正愛
(營業課勤務前事)
大邱支店長　中野滋
(安東縣出張所支店)
東京支店助役　松田義雄
(大邱支店長)

尚ほ營業課長佐藤得四郎氏は目下紐育出張中にて其の歸朝迄無任所たるべしと

●鮮銀總會開期

朝鮮銀行にては二月十五日東京銀行集會所に於て大正五年下半期決算を附議する爲め定時株主總會を召集し尚ほ理事一名の補缺選擧を行ふべく美濃部總裁は滿洲より歸任匆々東上の筈なるべしと

●鮮銀總裁張宴

朝鮮銀行總裁美濃部俊吉氏は新任披露の爲め八九兩日午後六時より朝鮮ホテルに盛宴を張る由なるが八日は在京龍の主なる文武高等官約二百名九日は同じく民間銀行會社代表者有力實業家各新聞社長等多數なり

▲仁川及び平壤

美濃部新鮮銀總裁は十一日仁川にて又十三日平壤にて就任披露の宴を張る由

●總裁滿洲行

美濃部朝鮮銀行總裁美濃部俊吉氏は十三日午前九時十分南大門驛發列車にて平壤經由滿洲視察の途に就き下旬歸京の由なるが其の視察地は奉天及び大連の二地にて各有力方面の歴訪並に就任披露の宴を張るべく旅行の都合上長春にも北上の筈なれど未だ決定し居らず隨員は調査局長井内勇秘書役大原嵐夫等の諸氏なり

●鮮銀券發行高

十二月二十四日より同三十日に至る朝鮮銀行券發行平均高は四千六百七十一萬八千六百三十七圓にして其内譯は正貨準備發行平均高千六百七十一萬八千六百三十七圓、保證準備發行平均高三千萬圓なり

●京城商議豫算編成

京城商業會議所は法令の定むる處により本月中に六年度豫算を編成して提出し所轄官廳の認可を受くることゝなり居れるため遲くも本月中旬迄には役員會及び總會等を開會し豫算の編成に著手すべしと

●鎭南浦の終航

大同江の本流凍結す影響を受けたる滯貨元旦より氣温頓に降下して寒氣襲來酷烈を豫期せしめしが果然二日以來寒威を加へ三日朝に至りては氷點下二十三度を示し鎭南浦港は江心の流域帶水を除し全部凍結開港以來未曾有の現象を呈したるが是を氣温に見て稀有とすべからざるも其珍現象を呈したるは時恰も小潮の緩流動時に際會したるを以てに外ならず此狀態如此なるを以て信濃川丸は遂に往復航共に寄港せず大連及び仁川へ其儀續航したるが第一小樽丸は河口一帶滿川江より襲來したる流氷を衝いて二日入港したるも出港に多大の困難と危險を感じ四日辛くも干潮を利用し多大の時間を費して江口より脫出せり一方當地の穀物商は運賃問題に就いても苦痛を忍びて商船の要望を容れ極力廻船を得んとしつゝありし折柄突發的なる此終航を見たる事とて打擊少からず二十日の終航豫期し十萬叺の吐出を企てたる事茲に歸したる始末なるが斯くなりては最早鐵道輸送の一途を餘すのみなれど貨車の配給依然として振はず一日一車の配給を以てしては如何ともするを得ず現今の在殼叺數十七萬内移出さるべきの十五萬の滯貨が今後如何にして處分さるべきか當業者は苦心中なり(鎭南浦)

●古阜水利評議員

曩に古阜水利組合評議員會は故を以て解散せられたるにより同組合にては十二月三十一日古阜に於て組合員總會を開き評議員十五名の選任を執行せんに同日出席の表決權を有する地主は二百十八名に對する百七十六名の多數にして左記の諸氏選任せられたり被選任者は資産家名望家にして又其選任も地區内全班に亙り居るに付今後事業の圓滑なる進捗を見得べし

東洋拓殖株式會社、不二興業株式會社、川野長久、龜田好助、奥村竹三郎、宮木叔夫、大森五吉、三宅浦之助、段成甫、段準基、李玉衡、朴龍錫、辛萬熙、白南信、金鍈東

●淸州の新年

▲御眞影奉拜　一日午前九時半より忠北道廳其他在淸各官廳、各學校等にて拜賀式を擧行し終つて同十時迄に道廳會議室に奉安せられたる御眞影を奉拜して退散す

▲名刺交換會　午前十一時より淸州公立小學校にて擧行せられたる官民合同新年名刺交換會は柳忠北道長官以下各官廳職員民間有志等三百餘名の來會者ありて盛會を極め定刻に會するや町田學校組合管理者は主催者として一場の挨拶をなし柳長官の發聲にて　兩陛下の萬歳を高唱するや一同盃を擧げて之に和し祝宴に入り隨意退散す午後に入りて市中は

●春川の新年

一日午前九時卅分より同十時三十分まで御眞影參拜終つて道廳内に於て官民聯合名刺交換會を開催す曾する者道長官以下三百餘名萬歲を三唱し午前十一時解散恰も正月日和にして一般廻禮盛況を極め市中活氣を呈す(春川)

●開城の新年

天好く晴れ而も例年に比して温暖なり鮮人は未だ陰曆を用ふるも皆國旗を掲げて祝意を表せり各學校は各々午前十時より拜賀式を擧行し一般官民有志は午前十時半より小學校に於て名刺交換會を開催せり昨年新に遊戲せられ壽多遷宮式を擧行せし子男山の開城神社には小學生一同の校長教員に引率せられ參拜せるを初とし日鮮人の參拜者絡繹として引きも切らず漫ろに内地の新年を偲ばしめたり(開城)

●延安の新年

黄海道延安公立小學校及び公立普通學校にては一日午前十時同校新築校舎内に於て新年式を執行林校長讀んで勅語捧讀並に一同起立東方を遙拜最敬禮を行ひ勅語捧讀、君が代の三唱終つて同校長一場の訓話を試み參列者官民有志數十名に達せるが極めて森嚴なる盛儀にてありし更らに正午よりは日本學校々堂に於て官民合同名刺交換會に移り先づ郡守一同起立　天皇陛下萬歲を三唱し次いで會郡守鮮人に對する告辭あり黑澤支店長壇上に立ち一場の祝辭によりて精神的講話を試みたるが當日出席者は邑內日鮮人を通じ一人も洩れず來集し百數十名にに亘りに寳に參り各自歡を盡くし和氣靄々裡に頗ぶる盛會の盛會にてありき

【開城】

▲消防出初式　開城消防組は去四日出初式を擧行し久野組頭、岡崎小頭以下出動先づ警察署に集合岡本署長より種々の訓示及び檢閱ありそれより町廻りをなし勇ましき梯子登等の演技あり午後無事終了し夜は夜明樓に於て宴會を催せり

▲川原署長出發　開城警察署署僚警部より河東警察署長に榮轉したる川原警部は去四日午後の急行列車にて出發したるが見送の人多數にして盛況なりき因に氏の後任としては高橋警部任命されたり

▲廿日會新年宴　開城二十日會は去三日夜明樓に於て新年宴會を開き盛會なりき同會は從來開城に於ける官公衙團體等の代表的主腦者のみを以て組織し居りしが此度其範圍を擴張し一般有志者中より數名を入會せしむる事となりたりと

【仁川】

▲楢野府尹歡迎會　一月二日著任の楢野仁川府尹歡迎會は八日午後五時より八阪樓に於て官民合同にて開催すべく會費は三圓なりと因に商業會議所よりは各方面に向け歡迎會開催に就き通知狀を發したるが通知洩れの向は會議所迄申込まれたしと

▲杻峴驛營業況　客年十二月中に於ける杻峴驛の營業況を聞くに乘降客收入は八千六百九圓四十七錢にして大正四年同期に比し五百三十圓餘の増貨物噸數は四百六十噸にして四百三十噸減なり此れ一般市況殷盛にて客車は好況なりしも貨物は貨車不足の爲め輸送意の如くならざりしに依る者なり

▲府尹軍艦訪問　楢野府尹は六日午前十時より軍艦に常磐、八雲司令官を訪問敬意を表したり

▲消防隊宴會　仁川消防隊は六日午後四時より朝日樓に於て宴會を催す

▲金物組合新年宴會　仁川金物組合にては九日午後五時より八阪樓に於て新年宴會を催す由

【平壤】

▲新年宴會　平壤憲兵分隊長千葉久松氏は三日午後六時より平壤憲兵隊同分隊警務部員平安南道廳同警務部平壤府廳同警察署等を櫻町壽樓に招待し一場の盛宴を張れり

▲各官廳御用始　平壤地方覆審法院其の他の各官衙に於ては四日午前十時より各政廳に於て御用始の式を擧げ各所屬官署長は部下官吏に對し官吏服務心得及び同服務規律を朗讀し新年の訓示をなしたり

▲移出金塊激增　平壤稅關扱の昨年一月以降十二月二十七日までの移出金塊高累計は三百八十九萬七千百圓にして就中十二月一日より二十七日迄の合計は二十六萬九千六百圓なり前年の累計は十二月十五日まで三百九萬六千百九十五圓なれば之れに十二月下半分を加算するも昨年は比較的大激增と云ふべく尙ほ本年剩す處の四日間には又若干の移出を見たり

▲稅關の臨時開廳　平壤稅關出張所は政務總監の通牒により貨物停滯の爲め破格にも一月一日臨時開廳、臨時仕役及び鐵道貨物の通關とも特に要急の事由あるものと認め特許其他の取扱をして普通休日の振合に依ることゝなれるが右の結果として稅關は幾んど歲末年始無休の姿となれり最も三十一日及び三日五日は午前丈け開廳す

▲本田府尹旅行　本田平壤府尹は歲末年始の休暇を利用して離發をなすべく廿八日御用納式後直に龍岡溫泉に赴く一月十四日頃まで滯在すべし

▲名刺交換會　既報の如く本田平壤府尹、大橋商議會頭の發起にて新年祝賀の爲め一月一日午前十一時箕陽俱樂部に於て名刺交換會を擧行すべく二十八日迄に內鮮人の申込者三百四十名に達せり

人事消息

▲國分三吉氏(司法部長官)　五日午後仁川へ
▲馬永發氏(仁川支那領事)　五日午後入京領事館へ

大塊

□元旦の東都より○○○○○

東都の元旦は實に麗な朗々大正六年の天道如斯乎明日は蘇峰氏と鎌倉東慶寺に禪伽窟に參じ一宿の豫定に有之候どんな初夢を見るにや

珈琲静坐澄す有爲なし初日哉

本日は先大雪に御坐候

初二日昨日に變る雪の空

お正月の思ひ出

—(二)三昔し前に帆船の軍艦で廿一の春—

◆椰子の葉陰に蛇の瞳

墨西哥砲臺では大砲が破裂　八尺の大鱶を釣り上げてお雜煮

—總督府附武官釜屋海軍少將の談—

お芽出度い正月の追憶としては何うしても少尉候補生時代の練習艦乘組時代が

◇一番愉快ちやなう　これでも我輩は明治二十三年に軍艦筑波で仁川にお正月を迎へ更に日清戰役の明治廿八年には捕獲艦操江號で仁川に居つたから今回で都合三度の朝鮮のお正月を迎へた譯だ、其の他旅順閉塞船の廣瀬中佐と一緒に遼洲の南端で年越しをやつたこともあるがまあ一番愉快ぢやつたのは練習艦時代のお正月ぢや

◇我輩の候補生時代　と云へば今からザット三昔しにもなるはなしぢやが當時我輩共は軍艦筑波に搭乘して墨西哥の太平洋岸を南下したのであつた、何分その頃のことであるから軍艦といへば軍艦で大き二千噸の帆船であるから蒸汽機罐は船の出入にのみ用ゐるといふ始末今とはだいぶ趣の異ふ頃ぢやつたよ恰も其の時ぢや

◇我輩共の軍艦筑波　は遙に亞米利加大陸を左舷の方に見て沿岸二三十哩の沖合を航し水や空空や水なる大平洋を過たのぢや、おゝ見よ、艦尾大洋の風に靡る日章旗の色と靑海波の色をぢや！船は恰度お正月の前日墨西哥はアカパルコの港に著いた、見れば陸には鬱蒼たる熱帶植物が繁茂つて海は

◇コバルト色に眞碧　である、我輩は此處でいよ〳〵明けて二十一歳の新年を迎へたのぢやがその時の愉快さは今に忘れることが能きれのぢやそれに上陸して見るとアカパルコの邊りは一番に荒涼たる蠻地であつて大きな椰子の葉蔭には恐るべき毒蛇の飯匙倩が居るぢやあないか—今は立派な都になつた相ぢやがむかしは實に酷い處だつたよ　それに滑稽なとは我輩共が

◇墨西哥國旗に對し　て禮砲を撃つたところ砲臺から發砲した大砲が破裂して墨西哥軍人は怪我をする始末上陸して見れば丸きり砲の操縦を知らぬのであつた、何分我船はお正月でも御馳走が無いので我輩共は大きな鉤に牛肉の切をつけて板を浮標にして海に投げ込むと見る〳〵大さ七八尺の大鱶が釣れたので何んでも

◇五六尾釣つて料理　したのであつた、鱶は美味くはなかつたが十八掛りで甲板に牽きあげた時は愉快ぢやつたよ、まあ我輩の愉快な正月は感慨ものだね、其の後責任があるやうな身體になるとお正月は餘り樂しいものではないよ

◆囚人にお雜煮　今年は監獄で餅を搗いた

京城西大門監獄では新年に囚人に與へる雜餅は購入してゐたが今年は補所典獄の趣向で糯米を初め材料を買つて囚人等に餅を搗かせて之を一日と三日の二回に配分した、新年三日間は例年の通り作業を休み食事も平素よりは待遇がよく元日にはお雜煮を添へてあつたこの休みの間も囚徒は謹愼してゐる三日には教誨師から嚴かな訓誡話があつた監獄でも大同小異のことである

●列車雪中に埋る

内地一帶數十年來の大吹雪

四日來内地各地に大吹雪起り東海北陸山陰の各線に故障を生じたる箇所ありて汽車の立往生となりものあり各方面共數十年來の現象にて中越線は三十七年目の大雪にて不通となり北陸線にては乘客に炊出して給せる所あり山陰線も不通の箇所生じたる由にて列車は雪中に埋まり汽罐車四臺にて曳きたる箇所ありと（大阪特電）

●烈風を衝いて 波狀飛行

ス嬢の鼻息凍る

スチンソン嬢は四日も烈風地上風速二十二メートルなるにも拘らず一時三十分より十分間空中の人となり見事にキルク拔き波狀飛行をなしたり嬢の鼻下鼻息凍り顔色紫色を呈せり嬢は米國なれば百萬圓貰つても行らぬ命懸けで行つてのけたりと語りたり尚ほ午後三時四十分より第二回飛行を爲したるが烈風止まず寒氣劇烈なれば七分の後著陸せり（大阪特電）

●女宣教師逝く　日本に來朝後卅八年目に當る女宣教師ミス、コルベーは五日逝去せり（大阪特電）

◆賑やかな初春の芝居

壽座の舊劇（二の替りを觀る

壽座の一月狂言は二の替りの二日目四日の晩に觀た、丁度一番目の奥州安達原の大詰三段目袖萩祭文の場が開いたばかりだつた、袖萩母子の出から

◆祭文　の條までに涙を誘はれたが謙杖の出、謙杖の切腹、貞任の見現はしから、幕切の見得まで院本物の定式振舞が近頃舞臺に稀になつた此の座の大道具によつて表はされ眞漢大芝居らしい味を出してゐたのはよかつた。

◆袖萩　は重若しい身體のこなし、濁つた調子で零落の身の果敢い心持ちが表はれ百々之助のお君と共に手固い藝を見せてゐた、祭文の條は少し濃厚過ぎたが貞任に替つてからは對面の十郎のやうな素敵な所があつたれど

◆品の　ある貞任、謙杖の最後を見届けて靜く思ひ入宜しく徐かに二重にかゝると陣鉦太鼓の響き漸ろに不審のこなし、それを考へるやうに摺足で七三まで進み、義家に呼び止められて屹となり、圖星を指されて太刀に手を掛け息急き込んで

◆詰め　寄るまで隙の無い藝を見せお君と絡んでの仕科も十分の情が見ゐた。新關の宗任はよく附合つてゐた唯顔の作りから全體に亘り最少し勇士らしい宗任でありたかつた、好之助の義家は思慮深き大將と見ゐず、押出しの割合に貫目足らず

◆中幕　の義經と共に感心出來ず一分別あつて然るべし。隠藏の藍岡題しの一本調子の所二役謙仗より層之助の摘々、身を入れて演たればそれ丈よし。中幕一谷嫩軍記の陣屋では新關の熊谷は稍はお約束の生締、組も陣屋には少し赤過ぎたれど先づいゝとして番附も

◆約束　が破らずよし、輝之助の相撲に向つて陣中に來た事を責め、相撲から小次郎の安否を尋ねられそれさなく小次郎の死に就いて妻の心を探つて見るところ斷氣の内にも思慮深い勇士が見ゐる相撲は小次郎の身を氣遣ふの餘り邪薬に若々しい所が無いでも無かつたが

◆情愛　があつて宜し、飛先きに直治の影に隠れて夫の眼を避けたのはいゝとして問ひ詰められてから相々する振は餘りに娘役染みてゐて見劣し、又『我子の仇熊谷覺悟』と斬つて蒐つた層之助の藤の方が一旦熊谷に組敷かれて鐵まりながら又ドみ〳〵と斬つて蒐るのは

◆可笑　いが相撲が助太刀すると藤の方に約束し乍らイザとなつて枝撲みとなり夫な此び『様子があらうとその譯な』といふも切なきうろ〳〵歸一で逡巡ふあたりは手に入つてゐた。藤の局を組敷いた熊谷が相撲からそれと聞いて『ナニあの藤の局、あの藤のお局あの―』と

◆溜息　を吐くやうに相撲と顔を見合せる呼吸がよかつた『ヤアおろか〳〵そも此度の飛びに―』からの述懐も確か、物語りも無難、『十六年は一昔』で白綸子の著付に黒の袈裟、法主となつて珠數爪繰りながらの藤外の引込みもよし、彌陀六はギス〳〵してはゐたが

◆宗清　となつてからはよかつた。義經の呼止が最う少し氣が入つてゐると一層よかつたのだが―四天王を使つての義經のこなしは大に工風を要す、切の夕隠に左衛門は時間都合で見送したが春の芝居としては可なりに觀られるのと今度から南桟敷に綱を切つたのも改良だと思つた―（太郎星）

大正六年一月場所新舊對照番附

（東京特電）

新東方　横綱 鳳　大關 伊勢濱　横綱 太刀山　大關 朝潮　關脇 大戸平　小結 玉手山　前頭 黒瀬川　同 巽砂石　同 大蛇潟　同 鶴渡り　同 石山　同 浦の濱

舊西方　横綱 鳳　大關 朝潮　横綱 太刀山　大關 伊勢濱　關脇 大蛇潟　小結 浦の山　前頭 石濱　同 大鳴門　同 玉手山　同 八甲山　同 鳴門洋　同 鶴渡り

前頭 稻の穗　△幕下　同 千年川　同 大鳴門　同 紅葉川　同 土州山　同 敷島　同 若戸　同 柏崎　同 千葉崎　同 琴ヶ浦　同 鳴門洋　同 八甲山

前頭 小野崎　△幕下　同 金の花　同 黒瀬川　同 寒玉子　同 巽砂石　同 千年川　同 土州山　同 稻の鶴　同 紅葉川　同 明石　同 柏戸　同 敷島

同 朝縁　同 稻葉嶽　同 大の里　同 常の花　同 大の高　同 清瀬川　同 大綿　同 櫻川　同 荒玉　同 三杉磯　同 西ヶ國　同 鎭山　同 國ヶ岩　同 隼（小島洋改）

同 琴ヶ浦　同 藤の川　同 大駒　同 八幡山　同 櫻川　同 黒ヶ綾　同 荒玉　同 外ヶ濱　同 常の花　同 刈藻川　同 四國洋　同 浪泉　同 兒島洋

新西方　横綱 西の海　大關 大錦　關脇 栃木山　小結 兩國　前頭 九州山　同 宇都宮　同 小常陸　同 綾川　同 源氏山　同 大野川（改）　同 君ヶ濱　同 岩木山　同 梅川

舊東方　大關 大錦　關脇 對馬洋　小結 栃木山　前頭 兩國　同 九州山　同 源氏山　同 宇都宮　同 釋迦嶽　同 紫雲龍　同 小常陸　同 近江富士　同 岩木山

同 釋迦嶽　同 宮城山　同 逆鉾　同 近江富士　同 紫雲龍　同 一港　同 駒泉　同 四海波　同 大門岩　關脇 對馬洋　前頭 龍ヶ崎　△幕下　前頭 藤の川　同 玉の川

同 大の川　同 宮城山　同 梅川　同 朝縁　同 稻葉嶽　同 四海波　同 龍ヶ崎　同 玉の川　同 逆鉾　横綱 西の海　關脇 綾川　△幕下　前頭 一緋湊

同 明潮　同 大泉　同 浪ヶ濱　同 外ヶ柳　同 玉野崎　同 小野山　同 花日山　同 朝柳　同 福川　同 紀瀬山　同 成見崎　同 國見　同 大貫

同 千葉ヶ崎　同 國ヶ岩　同 成瀬山　同 大門岩　同 藤ヶ谷　同 國見崎　同 朝日山　同 荒石　同 男鳥　同 太刀嵐　同 二十山　同 大の甲　同 大の高

●車體滅茶々々となる

自動車墜落詳報

客臘三十一日午後六時新義州を發して義州に向ふ丸加商會經營の自動車は新義州を距る二里の地點に於て一橋梁の欄干四間餘を突破して高さ一丈八尺餘の河面に墜落し運轉手の補助員と乘客二名は即死し運轉手と乘客三名は重傷を負たる事は既報の通りなるが遭難場所より二丁許りの地點に存する新義州警察署正州洞駐在所巡査は急報を聞くと同時に附近人民を驅り集め死傷者を最寄の酒幕に擔ぎ込み一面新義州警察署に急報せり同署にては寺本署長自ら署員外警察醫を引き具し直ちに人力車を飛ばして現場に駆付け檢證及び死傷者への應急手當をなし丸加商會も急派せる多勢の人夫を指揮して一應死傷者を新義州に輸送し死者の遺骸は是を丸加商會の本家に收容して夜伽の稱人を附し重傷者は之を新義州病院及び宇佐醫院に入院せしめ直ちに相當手當を施さしめしが新義州病院に入院せる乘客の鮮人一名は翌日遂に死去せり宇佐醫院に入院せる乘客内地人一名は其後の經過よろしく先づ一命を取り止むべく新義州病院に入院せる鮮人運轉手は左手の手首の脱臼せると腰部の打撲傷のみにて比較的輕傷なり丸加商會にては重輕傷者に對し丁寧なる慰問を爲し死者には形慰の方法を講ずる筈墜落せる自動車は其破損甚だしく到底修繕の見込無しと

■はためく軍艦旗　仁川港外にて常磐より八雲を望む

●巡査、大吹雪の河原で凍死

咸鏡北道地方は十二月十四日以來降雪甚しく近年稀なる大吹雪打續き二十七日に至り降雪は歇みたるも西北の風は依然として烈しく白皚々たる積雪を吹き捲きて飛散せしめ二十五日以來各地共交通全く杜絶の有様なりしが城津警察署龍源里駐在所勤務なる永井石藏巡査は本署の召集に應じて其の歸途二十五日午後七時頃吉州郡東海面南大川河原を渡渉中途に無慘の凍死を遂げたりと

●初火事—少女黒焦げとなる

高陽郡纛島面西纛島東拓移民北岡巽造方より一月一日午後九時頃發火し京城分隊纛島派遣所員出動里民と共に消防に努め同家亞鉛板葺一棟家財全部（損害五百五十圓）を燒失して同十時十五分鎭火せしが折柄就寢中なりし同家の娘貞子（九）の姿見えず搜索したるに鎭火後黒焦げとなりて燒死せる屍體を燒跡より發見せり同家は獨立家屋のことゝて里民の駆付けたる頃は手の付け様無かりしと原因は溫突の焚灰を棄てたるものより發火したるものなりと

●東京大相撲新番附發表

東京大相撲春場所新番附は五日午前五時發表せり前場所優勝旗西方の手に入りし結果本場所目にて東西入替りとなり從來の西方即ち太刀山鳳以下は東方に廻り舊東方の西の海大錦以下は西の方に廻る事となれり（東京特報）

氷る嵐に

小提督の荒修業

—海軍少尉候補生の生活—

『十一月二十二日の卒業式が了ると其の日の正午に乘艦を命ぜられたんですから九十餘名の候補生は、生れたての

◆鷗の様に　沖に飛びたし狎れ恐やで、乘艦以來と言ふ者は無我夢中で勤務して居ます』と常磐艦Yの少佐は零下十何度と言ふ潮風に鬚を白く凍らし乍ら甲板の上に立つて語る『江田島の靜かな

◆搖籃の中　で育てられて來た、未來の元帥も波と暴風雨に試練されつゝ下は水兵のする作業から上は靑年將校の勤務を見習はねばならぬので、約九箇月間の近海遠洋

◆兩航海中　は現實暴露の悲しみと言ふ奴に屢々襲はれるんです今度の練習艦隊は江田島を發して有明灣、鹿兒島、佐世保、靑島、大連、旅順を經て仁川に入港したんですが途中大連、旅順間では

◆黄海名物　の陳風が吹き荒んだ爲め、凛々たる寒氣が襲ふて寒暖計は凍つて了ふ、狂亂怒濤は湧き起ると言ふ有様で大分困難しました然し永年海上生活を經て來た者は夏は風の慈愛に孚まれ冬は颶風や

◆氷雪に鍛　へられる者と覺悟して居ますから餘程の寒氣や、怒濤でも平氣ですが搖籃を出た許りの若き鷗の雛には激くこたれて颶風を喰つた船體が縱動したり

◆横動する　毎に嘔吐たり號れたりする者は尠くなく、零下十九度と言ふ稀有の寒氣には多年鍛へに鍛へた他の水兵や將校に比して苦痛の度が激しかつた様でした、候補生の日課ですか？日課としては一日交替に半舷は甲板

◆當直將校　の見習ひ其他は機關術砲術等の學科を實地に修めるのでありますが血氣旺んの花武者が團體生活の眞髓を發揮して火の出る様な勢で教練を受ける處を見ると仲々愉快な者です先づ朝の

◆六時半に　起床すると直ぐにシャツ一枚になつて黎明の氣骨に徹る甲板上で星を頂き乍ら體操をしたり信號をしたり、ボートを漕いだり、甲板を洗つたり、檣に攀ぢ上る様な體育上の教練を受けるのでありますが

◆靑島以來　仁川に入港する迄は灼熱のボイラーさへも凍て付く様な寒さで十から、甲板は洗へず、ボートは濤が荒くて漕げず止む無く體操を激げしくやつて身心を練り鍛へて來ました、朝飯は體育教練が濟んでから七時半頃攝り

◆八時から　は約三時間半程航海術や海洋觀測や其他の專門學科を修め十二時に晝食を終つて一時半から三時半迄再び學科を授かり晩飯は未だ日の高い三時半頃で四時十五分から軍事點檢となつて上官の命令で

◆戰鬪演習　や大砲の操縦をするのであります、夜は發火信號の後午後の十一時頃迄は食堂兼教室兼寢室兼何々と言ふ候補室で自修するのでありますが短期間に凡ての智識と訓練とを受けねばなりませんから候補生時代は殆んど一分時の餘裕もありません（つゞく）

火ともごろ

▲久龍—例の富美廼家の二千圓が途々氣が變になつた▲五日朝の南大門驛では此の狂美人が故郷から迎に來た母親の涙顔を前にしてニタリ〳〵してゐた姿は凄かつたさうだ▲何でも久龍の言ふところによつて見ると此の暮には例の前借金の内から廣島の銀行へ預けておいた千六百圓を取り寄せ親類筋の筆頭に四百圓を埋めて貰つて自前となり▲その勢に乘じて直ぐさま廢業祝ひをしてその筆頭氏の家に乘り込み丸髷を結ふ約束でその祝ひに配る帛紗を千枚三越に注文までしたところが▲筆頭氏の家には己に丸髷を結ふた人があつて凡て皆ての口とは違ひ打つて變つて忽ち年末の諸拂にまで困るやうになつたので▲そこは矢張り女でフラ〳〵と頭に上つて了ひ名物の名物たる終りを告げる態となつたのださうだが▲南大門驛では朋輩やら知人やらの大勢の前で筆頭氏を始め特に近付きになつた二ダース半程の人の名前を双べて皆の秘中の秘までさらけ出して罵倒し盡し傍にゐた心ある人々をして耳を蔽はしめたといふ▲中には寢覺めの悪い向きもあらうテ、南無頓生發苦虚心

●鳥致院の大火　に努めたるも何分水の手の乏しき爲

一日より魚市を開き初日早々より二百を行ひ同十時より長春神社にて元旦

一月一日は稀らしき好天氣にて年賀

●各學校の始業式　京城府□びたるが授業は行はず正午散校八日

天氣　晴れ

文章世界

新年附録

◎妻の經驗（小説）　里見弴
◎下積（小説）　上司小劍
△解雪（詩）　三木露風
◎處女（小説）　相馬泰三
◎運（小説）　芥川龍之助
△貧者の寶（詩）　北原白秋
◎女の性（脚本）　カメロン
◎KとT（小説）　田山花袋

◎人道主義とは何ぞ　三井甲之
◎フロベエルの創作上の一年間
◎ロシヤ文化の將來　片上伸
◎ノーベル賞金の由來とヘイデンスタム
◎創作の意義　和辻哲郎　中村孤月

正宗白鳥論　桁平、勝治、和辻、秋江、修
文壇諸家に與ふる書（十篇）

◎藝術の爲の藝術と人生の爲の藝術　阿部次郎
・黄稻集　大須賀乙字
・歌壇ゴシツプ　バンクペン
・多雑詠　高田蝶衣
◎畫室より　大野隆德
◎脱却の工夫　田山花袋

新年號定價金五十錢　郵税三錢（特別大倍號に限り）

文藝倶樂部

文藝界の權威　新年號　東京本町　博文館　賣捌　全國書店

新年附録　巽の雪（掛額用極彩色浮世美人繪）（鰭崎英朋畫伯苦心の大作）

△蛇の芝居物語……贋阿彌
△演藝當座帳……鬼太郎
△誌上連鎖「忍術破り」……阿彌笠耶色
△演藝杜鵑……本山荻舟
△二長町の素人劇より……煙亭
△芝居の棚卸し……鬼太郎
△新版東京名所双六……島田吉丁字
△によろ〳〵として……伊藤みはる
△或藝者の日記……翠子
△丁巳の廓の初春……江澤春霞

◎山の悲劇（小説）　田山花袋
◎女賊の影（實説奇談）　井田弦聲
◎半七捕物帳一「お文の魂」（小説）　岡本綺堂
◎曾根崎夜話（小説）　近松秋江
◎潮の音（小説）　久保田萬太郎
◎植長の離室（寫眞小説）　山本　井川洗厓畫
◎安宅郷右衛門（講談）　大島伯鶴

△當代名士と古本……
△御祝儀掛蓬莱……熊谷無漏
△寶さんの蛇話……登女公
△お妾生活……紫芳生
△料理店巡評……雨の生
△國技館で見る女……千代野一子
△八百長物語……三世吉
△春與勵物の藝當……鳥天狗
△日今新橋邊り……川部牛紅
△朝潟行脚……忍樂外史

定價金二十八錢　新年號に限り郵税三錢

…るが同本町通りは家屋櫛比の場所柄…とて見る間に近隣魚問屋泉樂店を延…め…し第一第二消防隊の出動し消防…戸半焼二戸人畜死傷なし此損害約二…萬圓なりと尚今回の大火にて全焼せる魚市場は焼け跡に假小屋を建て二…

宮中晴れの御膳

宮中の新年には松竹の飾なるものなくまた屠蘇白散などの用ひもなし只御餅は今も昔も變る處なし御餅の恰好は菱形にて前日の合せ餅さなし其の中には味噌と牛蒡を入るゝ也、其の外雉子酒といふものあり雉子酒といふは讀んで字の如く雉子に酒を入れたる御酒にして聖餅の雉子を二切り三切り入れて其の上に燗酒を注ぎ殿上人が頂戴するなり此の雉子酒について古老の話ふる處に依れば徳川時代には御所の供御も其の用足らず雉子の代りに焼豆腐を二切り三切り入れて雉子の代りとなしたるもの也、其れが長き間継續したるが故に宮中の公卿方には雉子酒とは名のみにて實は豆腐酒なりと思ひたるもの勘からずと聞きしが維新後は實際の雉子を用ひ現今に及びたる次第なり然れども此の雉子酒といふのは内々の御祝ひ酒にして所謂宮中晴の御膳なるものには矢張り御大禮の大嘗祭に供進せられたると同様の白酒黒酒を御嘉例の酒とせらるゝこと昔と變る處なし白酒黒酒さいふは酒さしては極めて質素のものにして現今の所謂濁酒よりも尚は質素のものなりとぞ然し此は神武天皇以來代々の神々にも捧げ又帝御自身も聞し食されたるものなれば古禮を重ぜられ宮中の新年晴の御膳には必ず白酒黒酒を供へらるゝ例也而して白酒黒酒の杯は此れまた古代式の土器にして一見古風を偲ぶに足るものなり其の他晴の御膳部に上せらるゝ御料理といふは先づ鯉、鯛、鱒などの魚類の外大根、蕪等の野菜類にして共を山形に盛りて供へらるゝ例なり當日御膳部の皇宮には清涼殿に出御ましく其を御祝ひあらせられしものなるが現今の宮中に於ては鳳凰間に兩陛下出御の上三箇日間そを祝ひ給ふとぞ承る

●水道の閉栓を充分にせよ
―給水栓の凍るのは― 使用者の不注意

京城水道はその構造に於て完全なる防凍裝置を施しあるものなるが頃日來の酷寒に逢ひ一般使用者中には間々誤りて閉栓を充分にせざるか

▲或は故意に 内地の水道に做ひて放水するものある爲めに却つて凍結し折角の防凍裝置も効を奏せず茲數日來給水栓の凍結を訴ふるもの多き由なるが之れが爲め無用の勞力を費すのみならず著しく使用水量の激増を來したるは最も注目すべき事にて平日の使用水量は約三十五萬立方尺のものなるに數日來は四十五萬餘立方尺を數ふるに至り平日の約三割を増加せる爲め

▲蔵島水源池 の如きは晝夜の別なく極力機關の運轉と送水に從事しつゝあり又京畿道にては水道係全職員を擧げて晝夜の別なく市内給水栓を巡視せしめ尚各分擔者を定めて各戸別訪問を行ひ放水濫費等に關する注意及び取締を勵行し且給水上の大小破損の修繕に從事せしめつゝあり

▲既に放水を 發見し注意を與へたるもの數百件の多きに達したるが是等の注意にも顧みざる爲めに已むなく停水處分を受けたるもの既に二十件に及びたりと罰ふ素より斯かる處分は水道當局者としては最も遺憾とする處なるも若し今日此等の違反者を默過するに於ては

▲何時斷水の 不幸を見ずとも限られざれば一般公衆の爲め涙を呑んで行政處分を行ひつゝあるものにして尚ほ効果を收め得ざるに於ては更に司法處分を煩はさゞるを得ざるを以て各自の公徳心に訴へ放水濫用等の事無く從つて斷水の不幸を見ることなきを切に希望すと京畿道長官は語れり

雷門助六の助六 ―浪花館にて―

●開城署の狩獵大會

開城警察署にては開城憲兵分隊と聯合し新春の五日午前六時より總員約百數十名の憲兵警察官開城署構内に參集して部署を定めたる上狩獵大會を開始せり總員を三班とし第一班は猪狩りを目的として岡本署長之を指揮し第二班は獐狩りとして高憲兵部指揮し第三班は雉子狩りにして憲兵側なりしが各隊共豫定の方面に向つて進發し何れも初春の功名を期して驅け廻り同日午後三時を期し一同同地裁判所構内に引揚げたるが搶ぎ込まれたる獲物は猪一頭、獐一頭雉子四十羽にて是等を手料理として新年宴會を開催したりと

神社とお寺と教會

○護國寺（旭町三） 六日より二月四日まで毎日午後七時より寒中法要あり御正忌毎日午前八時より在家者に説教教授を施す由

○妙心寺（長沙洞） 七日午前十時より本年の開講式安國論中の元旦上堂の提唱あり御正午後七時より講會あり

○京城基督教會（長谷川町） 七日午前九時より日曜學校あり同十時より禮拜說教「如何に新ならん」井口牧師 又午後七時より傳道說教「中閒淘汰」同牧師

○京城基督教會（南米倉町） 午前十時半より朝拜說教「秩序ある生活」山本牧師、午後七時半より夕拜說教「人生の意義と價値」同牧師

一月一日天氣晴朗にして微風だに無きも氣温零下二十三度を示せり午前九時半より小學校に於て新年拜賀式…學校にありては…參集し校長より一場の訓話あり終つて各教室にては書初めの點檢等を行…

●稀らしき好天氣 【間島の元旦】

…晴にして初荷の寶初めは近年稀に見る好況を呈したり（龍井村特電）

商況

公債直取引（京城）
六日前場
五分利特別　九四、六〇
一回四分　八二、三〇
二回四分　八三、三〇
甲五分　九四、六〇

深川在米特電
六日現在高
朝鮮米　八七、五五一
臺灣米　六一、三七六
内地米　一、五〇一、八四一

東京期米特電
六日前場 二月限
寄付 七、八五　高値 七、八八　安値 七、七五　止め 七、八一
後場　―　―　―　―

大阪三品特電
四日初相場
一月限 七七、五五　一七九、二五
二月限 七七、五五　七八、五〇
三月限 七七、八〇　七九、〇〇
四月限 七七、九五　七七、九〇
五月限 七五、五〇　七七、三〇
六月限 七四、四〇　―

大阪期米特電
六日前場
當限寄付 一六、一五
中限寄付 一六、五四
先限寄付 一七、〇九
止め

下關期米特電
六日前場
　　當限　中限　先限
寄付 一五、六六　一六、六〇　一七、〇七
高値 一五、六六　一六、六〇　一七、〇七
安値 一五、六〇　一六、六〇　一七、〇三
止め

雜報

●撫順炭又値上げ

内外炭價の暴騰は朝鮮に於ける撫順炭の値上げとなり一月一日附を以て右小賣値噸一圓五十錢上げの旨發表せられたるが大正元年度に初めて撫順炭輸入されし以來常に一定の價格を保ちて石炭市場の暴騰以外に立ち九州炭との値開き三圓餘りに及びし時さへも遂に値上げを行はざりしと云ふ滿洲炭從來の經歴抱負より見て今日前後二回迄値上げせし如きは非常の事なりと云はざるべからず目下鐵道電氣等特約の分を除き一般に使用し得べき炭は一日約七十五噸内至百噸内外にして需要の三分一を満たすに過ぎず當業者は…一般賣止めを然し如き狀況なれば本日の…苦況を訴へんため需用者を認め又運賃を減して增加を求めんとなしつゝあり

●白米移出初手合

技許精白米移出口は舊臘東京及び阪神地方より一時非常の勢ひを以つて注文を齎らせしも其後内地現正米の瓦落と同時に稍と商談止まりしのみならず彼受主に於ては何れも高値注文の關係より相場の下落を見て之が對し何彼と苦情多く或は輸送の遲延を楯とし又は包裝の破損を持出して値引の交渉を重ぬる等大に引受者側も悩ましつゝありし打柄新春の手合ひも例年の如くならず其取組は僅かに當地中大角藤井商店と大阪山本商店との間に十五圓七十錢（神戸渡し）山京印叺入二百叺の出來ありし位なり然し期米筋に於ては年末來の大阪期米暴騰の移りもあり前約口に到ける苦情は幾分緩和せられ或は之にて圓満の受渡を完了せらるべきかにも見受けらる

●棒鐵引締む

鐵材は舊臘來本國高を掲として継て強弱の成行きを喧へられしが一旦騰和說に展を打られし事と實勢伴ひ緩き節ありしが一陽來復と共に愈々現貨に相場を引締め新年劈頭に於て平丸鐵共に百斤に付約五圓方の騰貴を見る

●牛皮は持合ひの姿を呈し居れり

昨冬來支那皮は米國禁輸及び爲替關係より濟南皮の如き大阪著の百斤百圓内外の高値に當るを以て自然同國牛皮の本邦輸入は著しく減少の模様なる上鮮皮又輸送遲延し舊臘末大阪の在荷は極めて少額なるを傳へられに未だ同地の皮價昂騰を促がすべき機運到らざるが相場は依然舊臘末の値居据り狀態なるが茲許一時賣越りの姿なりし鮮商側も輸送の關係上近來貿易筋の買進まざる爲め漸く成行きに手放し來らん氣構となり新春初手合十五六圓處にて相當取引行はれたり而して大皮は米國皮價より代用和皮等需要増加しつゝある爲め昨年末中皮の相場の弛みしに反し本品は相變らず七十五圓迄を維持し至極強固の成行を示しつゝあり

●海産物新春市況

鮮人向海産物は此處暫止を眼前に控へ人氣良好なるも概して品薄なる爲め賣買共に捗々しからず本年初相場としては左の如く出來し今日尚見當を持合ひ居れり

▲生明太　四十二圓
▲北韓鹽鰊　大形四十六圓 中形四十八圓迄
▲干明太　江原道物二十八圓 新浦物二十六圓より二十五圓迄
▲昆布　好人氣にて一個（二十四貫入）八圓見當
▲海苔　全羅物四十五圓（二百枚）
▲鰑　北海道物二十七圓（百斤）

●米鰊愈々到着

米鰊は既に仁川港へ第一回の着荷ありて初商内としては同地の二十五圓見當に取引行はれしが當地へも不日到着すべく其後の見込みは一方神戸相場は最初七圓七八十錢を傳へ其後の輸出の不況に漸落し今日にては遂に六圓迄暴落しつゝある等の模様あるもの、如し而して同地の市況甚だ振はざるに付き…入品は多く六圓五七十錢見當の…に係るものにて技許賣買の二十五圓處は相場として至當の値頃なりし爲め値安持の商物を終へ當場の入品あるべき模様なれば此鼻一二十二圓内外を以て賣出し初めんとし居れり尚内外へ通知を發し居れり左れば先著物の一部分は或は豫想の値に返らん多少の安値を見るに至るべし

確實 迅速 （定期米取引所仲買人） 廣瀬正次郎 仁川米豆取引所仲買人 電話 一六五番 六三〇番

●無烟炭の需給

無烟炭は依然從來通り廉價甚しき一般ストーブ用オンドル用向きの不斷無烟炭は依然從來の値にて相應の供給力あり漸次需用高增加しつゝあるがこれが燃料の供給は民間の燃料に困る虞れあるを以て工業及び殖林の保護を計る目的の策として官營は無烟炭の事なるべし昨年四月より本年三月までの右鉄炭需要高一萬四千噸中例年に比し目下四割増の需用増加を見たれば殘り不足を告げたるも更に製造追加を行ひ得べきと一方輸送力は鐵道所專用貨車を使用して極力輸送に努めつゝあれば一般需貨の影響を受くるに到らざるより今尚ほ充分の供給力を有するも需用者未だ其の使用に慣ずピッチ炭と粘土炭と區別を知らず徒に火付き鈍きを嘲つ有様なるに加へストーブ用の如き小口注文者には細かい價の融資も左したる苦痛なきより寧ろ程の需用なくな大節に増加しつゝある狀況なり

京城雜穀

▲小豆 移出の中絶にて昨年十二圓五十錢の高値より落ちて赤大豆十一圓八十錢見當
▲白胡麻 滿洲銀相場下落の影響をうけ天井圓への模様にて十八圓五十錢處にて持合へり
▲粒豆 節季を控へて暮以來の買多かりしため在荷多く十圓七十錢

南大門の廻穀

▲大麥 愈々に乗除入札了りて三三十錢方安戻りし純南部上物四四三十錢より四十錢迄にてボンヤリなりし
▲小麥 上物九圓見當
▲小豆 海州物 六圓十錢
▲牛小豆 上物 五圓九十錢

●五日 天安玄米一九五叺 一山白米二六叺 鳥致院綠豆四〇叺 燧原大豆九七叺 馬山玄米四二叺 南浦穀八九叺 天安玄米一二叺 天安白米一〇叺 西井里白米三八叺 平澤雜穀二八叺 水原白米一〇二叺 天安白米七〇叺 成歡穀一二〇叺 汶山穀六〇叺 天安白米一一五叺 成歡白米三九叺 天安穀一四一叺

●六日 鳥致院玄米七〇叺 全義白米九六叺 成歡穀一九五叺 全義穀二三叺 西井里玄米九八叺 鳥致院穀六〇叺 天安玄米二〇七叺 温浦場穀四六叺 天安穀二〇三叺 全義玄米七九叺

仁川現物市場

▲籾入津約千俵 氣配は更に高人氣を唱へ居れり
▲正米入津六七百叺 氣配は期米高に叶ひ米高を受けて高人氣を唱へ居れり
▲大豆入津五六百叺 氣配變らざる唱へ居れり

正米の氣配は昨年末日本各地の定期米納會に於て無事平穏にして一齊に新年の初相場待ちに於て保ち始めに正米もさしたる變動を見ず然るに當地の正米界は一時の大騰に戻退の後らし地方産地の賣惜みを來し出廻大に減退し賣物の減少を呈し精米口の必需買にて一寸二三十錢方を高めたりし而して二日の初立會には前年の持越米に當物も非常に多く輸出口は時期的に高物に押されて年末に比し二三十錢方の低落を以て買物に押されて…如く出來せり大豆は何分品薄にて歩々しき商談なく商内も少く只小甘き感なきに非ざるも概して弱保合の商狀なりし

森仲買店 仁川米豆取引所仲買人 仁川海岸町三丁目 電話居用 長九〇五番 本宅 電話 八三二番

釜山の初市場

生魚市場

舊臘來不漁續きにて二日初市は鯛一貫目八圓と云ふ稀有の高値を出したるが昨今又入荷少く京城兩市場と平日の半ばに足らず本朝僅に鯛コチブリ及び鰤等の到著せり日之丸市場中上品値段左の如し

マダイ一七、サワラ一八、ブリ一七、目白一七、カレイ一二、アナゴ一四、イカ一三、サゴシ一六、鯖一五

仁川米豆取引所仲買人 三巳仲買店

仁川期米

▲六日前場 大阪天候晴 寄十七圓〇九錢と一昨止より實に三十六錢大上放れの入…

仁川米豆取引所

六日の三月限

	前場
寄付	十二圓九十五錢
止め	十二圓九十三錢
高値	十三圓三錢
安値	十二圓九十錢
出來	五萬六千七百五十石

平均値段	
一節	十二圓九十五錢
二節	十二圓九十一錢
三節	十二圓九十四錢
四節	十二圓九十八錢
五節	十三圓一錢

賣買取組高

一月限	一萬五千三百石
二月限	八萬四千四百五十石
三月限	……

四日後場		前日と比較
一月限	一二、八〇	一五高
二月限	一二、七九	一四高
三月限	一二、八〇	一三高
	一二、七五	一五高

市場雰圍

▲果然沸騰す 初立會に現在場の大阪の大上放れ跡を受けたる大阪の大に强硬の成行を示したるが…

電一節更に二十九錢と大暴騰を報じたる小安三節二十二錢と大阪五節移りにて二十八錢と高移りに沸き十三圓〇三錢と沸騰し…

▲人氣沸騰す 米界の一崩れたる後退したる人氣は初會の入津減少したると新米筋の買進みの外氣硬の模様なりし…

▲硬軍の大に買進み…

明君道中記　第二十一席

田邊南龍口演

大河内長四郎は紅葉の様な手を突いて 長『御親切なる長谷川様のお言葉でありますが、私は當年十二歳先頃若様の許へ出ます砌父金兵衛の申すには、侍といふ者は萬一事あらば主君の爲に命を捨て御奉公するものであるとの教訓其故例へ若様が雀を獲れと仰せられたにもせよ、其の賢を云はずしてお手討を頂くこと家來の本分と存じます、イザ御存分に遊ばせ』と首差伸して覺悟の體、秀忠公是れを御覧なされて思はず長四郎の手を執つて 秀『あゝ金兵衛は宜い悴を有つた、又た竹千代も宜い家來を有つて仕合せ羨しく存ずる、コレ長四郎、只今の一言を忘れずして竹千代に仕へてくれよ、此れを其方に取らせる』と下げて居らせられたる御印籠を取つて長四郎に下し置かれました、此の體を見て長谷川丹後守も感心をしたが、此の花より知れるとか此の長四郎が成長の後長澤の松平家へ養子になつて三州吉田で七萬石松平伊豆守信綱となりましたが、是を智慧伊豆と云つて人々が賞賛しました、恁らいふ人達が御側に附いて居りますから竹千代君も自然發明になる譯である、毎日庭前へ出で寛け歩き惡戯ばかりして居る様だが、其中にも時々人を驚かせることがあります、今お庭で遊んで居らせられると一疋の蛇がニヨロ〳〵と這出して來たから、設ら惡戯でも竹千代君は懼いて 竹『アレー』と逃出す、處へ荒け來つたのが井伊掃部頭直孝侯、扇子の要の方で蛇の胴を押へたからクル〳〵と巻付いた其儘向ふへ打捨て取つて返して 直『若様只今のお聲は業々しい何事でございます、貴下は御成長の後に三代將軍に成るべき御方、僅か尺に足らざる小蛇を御覧遊ばし大聲を出してお逃げ遊ばす様では天下の主將となつて政治を執ること思ひもよらず、お嗜みなされて然るべく 竹『是は掃部の言葉とも思へぬ、小さな物は何でも恐くないと云ふか 直『ハ、ツ』と恐入つて平伏いたしましたが、此の小さい物は何でも恐くないかと云ふ一言は蛇と自分の身體を比較いたして申したことで、蛇は小さくも毒虫で恐れべきもの、俺は小さくも主人であるから恐れるであらう、若しそれを恐れねば無智の者、恐れべきものは何處までも恐れるが當然だと云つたのでございます、掃部頭は是を聞いて心中に此の君天下を知し召す時は増々徳川の御家は萬々歳末頼母しき若君と感じ入つて其場を引退りました、恁らいふ氣質であるから人々も恐れを抱く、茲に森川出羽守といふ人があつて或日將軍のお目通りへ出て御用談中餘り騒がしいから出羽守は庭前の方を見て 出『若様些とお靜になさい只今御用談中でござるから』と叱ると竹千代君ツカ〳〵と其處へ來て出羽守を睨んで 竹『出羽不禮であらう、只今の一言を忘れるな、後に思ひ知らしてくれる』と云つて向ふの方へ驅けて行かれた、出羽守は後姿を見て 出『何此の小倅が、生意氣なことを云ふ奴だ』と云つたが、秀忠公が薨去になつて家光公の代となると森川出羽守殉死と名付けて切腹をしてしまひました、是を聞いて家光公 家『出羽は何うした』 切腹をしたと、豊夫生ては居られまいと申して十才の砌出羽が不禮をいたした、何時は彼に怨みを果さんと思つて居つた處彼奴もそれを知つてか切腹いたしてしまふた、若し存命いたし居つたならば家光が縛り首にもいたしくれる處であつた』と仰せられたと云ふことでありますが、子供の時に云はれたことを覺えて居ると云ふは執念深い方があつたもので、實に此の家光公は賞罰嚴にして武勇逞しく人々を恐れしめたと云ふことでございます

醫院開業
内科、小兒科 入院隨意 酒井醫院
院長 酒井鼎
京城旭町一丁目 元中央婦人病院跡 電話二五四一番

一月八日九星 舊十二月十五日庚戌 本命二黒坤納友引

▲二黒 氣形損となる事有る日注意新事見合す方は吉 ▲三碧 一寸倦みたる事有る日新事手控するは吉 女子は行儀を守るべし ▲四綠 女難失物用心の日新事手控當は吉 無益の散財を防がるべし ▲五黄 友難起を生ぜんとす注意新事手控當は吉 一切の爭事せぬがよし ▲六白 總分多き日轉居開業入學求職金談家作婚姻旅立等皆吉 ▲七赤 大利益の日轉居旅行出張名弘探求職婚禮大なる金融等萬吉 ▲八白 見かけだおしの事有る日新事手控當は吉 買物に用心せらるべし ▲九紫 天敵を得る日轉居開業旅行名弘求職金談取引等萬吉 ▲一白 浮和〳〵した事有る日新事手控當は吉 一切のかけ事を禁ず

演藝案内

京城壽町 電話五七八番 壽座
一月七日八日替り藝題
▲前 小三金五郎
▲中 難波戰記（木村長門守血判取）
▲切 名作左小刀（京人形）

新春第一次大寫眞 ●日活會社最近の大作品
舊劇 吉田御殿 前編後編七卷續き ▲津和野城主坂崎出羽守の壊死千姫の狂亂近來稀らしき物使き大寫眞
泰西活劇 選擧戰 三卷
六日より上場 大正館

電話二一九一 成町 御成座
六日替り藝題 ▲一番目 新派劇 中山安兵衛 ▲二番目 舊劇 ▲大和錦散り櫻
七日替藝題 陸軍中尉中江明（荒波）吉野葉子（天野）陸軍御用商人間島剛造（白根）…

本町五丁目 稻荷座
●義列百傑 門山光若丸 藤川久米春 臣錄（長講一席）座長竹川馬生 ●廣澤廣駒 ●鬪取千兩幟（千田川留吉） ●俠骨國貞忠治、古代忠 立川一雄 ●荒木又右衞門（樋中尉）

明治町 電話二六〇 浪花館
東京落語柳連雷門助六一行
▲一月一日より毎夜五時開演仕候 ▲落語（雷門小六）▲落語（雷門ぼたん）▲落語…

櫻井町 電話八七三 大正館
日本活動寫眞株式會社朝鮮代理店
正月六日より第二次特別大寫眞提供 ○寶島伊太利ボレンボの谷 ○滑稽セル男パンの製造 ○喜劇リー嬢の就職 ▲丁抹ノルディツクス會社傑作 泰西人情劇選擧戰全三卷 ▲日活向島俳優尾上松之助以下全員出演 ○舊劇吉田御殿 前編後編七卷續き 徳川二代將軍秀忠公の一女千姫…

新年初興行一日より
京都親友派の泰斗として萬都の斯界の好評を博せし竹川馬生一行を招聘連夜午後五時より開演仕候間御引立御來聽の程願上候
京城本町五丁目 請元 稻荷座

京城壽町 電話一〇五〇 壽館
一月元旦より 東洋軒雷右衞門一行
▲伊賀の水月（雷聲）一出世鏡（辰城）一曾之魁（茂之助）一出生相撲（松雪）元祿雪之曙 ▼百集美談 ▼氏戸黄門記（三席…雷右衞門口演）

早川直營 電話二六三七 黄金館
▲一月五日より新春第二次特別大興行 ▲米國パテー會社支店大傑作 大阪大活劇第二魔海 三十四篇 四卷上場 世界的連續寫眞として有名な魔海を御存じですか…

荊妻菊病氣の處療養不相叶昨五日午前十一時半死去致候間此段謹告仕候
追而途中葬列を廢し來る十日午後四時半若草町曹洞宗別院に於て葬儀相營可申候
一月六日
親戚 上田駿一郎 石田民之助 杉浦眞鐵
總代 水口兵次郎

報
京城測候所 前日 最高 十九度二分 最低 零下七度一分 拂曉 零下十八度一分

御用品

高貴の方々に用ひられ
特別の原料で製された

レート白

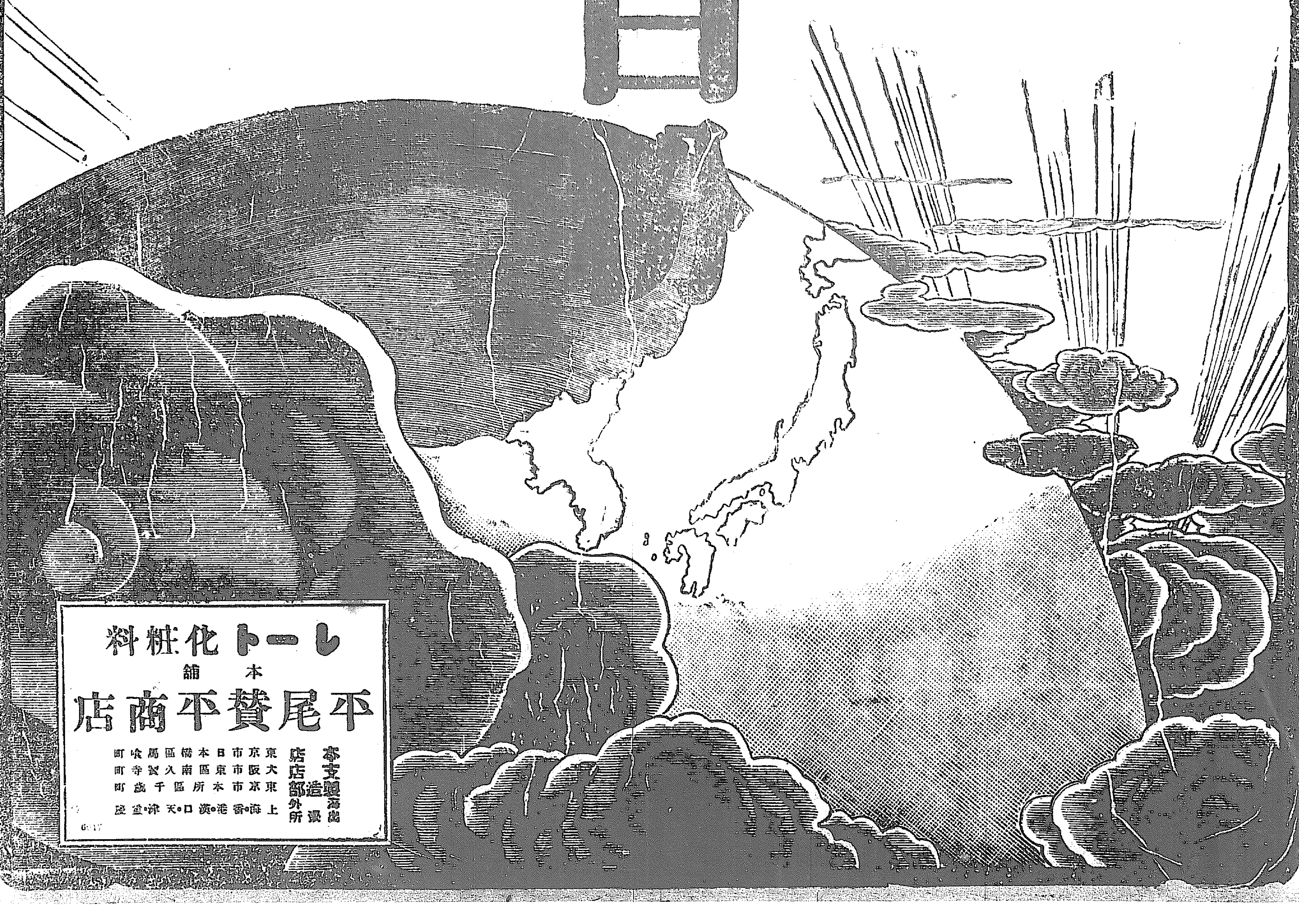
白さに艶がありお化粧崩れせぬ

極東を代表する化粧料

レート白粉が高貴の方々の御料となり、今や極東の代表的化粧品として天下に愛用を得て居ますのは、第一製法が他と違つて原料の精選は素より、技師學士の發明になる特別な美容劑を加へてある上に、最も新らしい機械と練熟な職工によつて製へられて居りますから、他品と比べて分子が微細かく、被覆力が強う厶います。其上白さに艶があつて、決してお化粧崩れが致しません。

其證據にドンナ方でも

レート白粉をお附けになりますと、どんなお方のお顔にもピツタリ適つて氣持の好い程自由自在なお化粧が出來ます。そして自然で上品なお化粧榮は實に氣品があり眞に美くしく、その上お化粧崩れが致しませんから、何時までも其美くしさが保たれて居ります。すべて之等の飛び放れて優れた点が、即ち高貴方の御用品となり、皆様からも御愛用を辱うし、尚ほ全世界より好評を博して居る所以で御座います。



レート化粧料

本舗 平尾賛平商店

本店 東京市日本橋區馬喰町
支店 大阪市東區南久寶寺町
製造部 東京市本所區千歳町
海外出張所 上海・香港・漢口・天津・[illegible]

6017

京城日報
第三版
一月七日
（夕刊と合せて八頁）
本紙定價　廣告料
發行編輯人　奥田　印刷人　小川三之介
發行所　京城大和町一丁目　京城日報社

京城日報

植民地問題

歐洲講和問題世界の人心を動かしてより以來、此戰爭の終局に於て、交戰諸國の植民地を如何に處理すべきかといふ問題を惹起し、講和條件を說くもの、戰後の經營を說くもの一として此に言及せざるはなし。特に我日本國民としては、此問題に就て神經極めて鋭敏ならざるべからざる所以のものあり。他なし、我は交戰國の一に算せらるゝと云ふと雖も、其表面に現はれたる成績としては、只獨逸の租借地たる青島を固守したりといふに止まり、其青島は既に支那に還附することを聲明したるを以てなり。世人一ト口に植民地を說き、獨逸側は一切の植民地を開戰以前の原狀に復すべしと爲し、聯合國側の爲に云ふものは、植民地の處分は聯合國協議の上に於て之を定むべしと論ずるが如くなれども、我日本が青島を攻取し、膠州灣租借地の處分を定めたるは、我作戰上の主一事實たると同時に、其處分亦既成の事實なり。而して其一舉一措は我同盟國と協議を盡くせるものならざるはなきなり。今乃ち植民地問題を說くもの、之れを阿弗利加諸植民地の爭奪問題と同一視し去らむとするは甚だ其當を失するものならずや。

然りと雖も、今の植民地問題を說くもの、固より我青島の事に就て言ふにあらざるなり。今日歐羅巴人の眼中植民地問題なるものは、專ら阿弗利加に於ける各國の領土の上にあり。十九世紀以來阿弗利加擴大の地は、則ち英佛露白諸國の植民經營を行ふところなり。諸國各々其勢力範圍を定め、領土的經營を始むるも、其事猶ほ創草に屬し、其の既に企畫する所の事復た互に相便とせざる所のもの多し。是れコンゴー問題モロッコ問題等常に國際上の混雜を惹起す所以なり。獨逸のごときは、時後れて領土獲得の事に從へる爲めに、其面積は甚だ大なりと雖も、其施設は未だ至らざるもの多く、且英吉利及び佛蘭西との關係甚だ面白からざるものある爲めに、千九百十四年英佛獨間に協議を重ね、六月十五日植民地整理條約を調印するに至れりと云ふ。其後兩國の關係穩かならず、未だ其條約を調印するに至らずして此度の大戰役の勃發を見る。此條約は既に不成立に終り、且此戰役の結果、歐羅巴諸國の國力國勢に大變化を來すべくして、其阿弗利加問題に及ぼす影響如何は、今此に之を逆睹すべきにあらずと雖も、英佛諸國の意思は、則ち此機會を以て此問題の爲めに拔本的解決を爲さむとするにありて存するや論なきなり。千九百十四年の英獨協議の要旨は、阿弗利加に散在する所の獨逸の植民地を一處に綜合して、獨領西阿弗利加より東阿弗利加に涉る一大地域を畫かしめむとするものにして、獨逸は其幾分の損失を代償として、小亞細亞及びメソポタミヤを獲得するといふあり、獨逸に取りては實に有利なる條件たりしや論なし。然れども今や獨逸の阿弗利加植民地は、既に悉く英佛軍の爲めに占領せられ居るを以て、後日講和會議[illegible]を回復せむと欲せば、相[illegible]自ら犠牲せざるべからざるの[illegible]英佛諸國亦之を許すべきや否や、其時に及びて初めて之を判斷するの外なし。且英佛諸國にして之を獨逸に還附することなからしむるも、阿弗利加の地圖を改訂する爲めに各國關係國間に協議を要するや言を待たざるなり。

大正五年 朝鮮經濟の趨步（四）

十、海運

大正五年に於ける朝鮮海運界は、朝鮮郵船會社の經營に係るもの命令私營を合せ十六線所有汽船三十一隻一萬餘噸にて沿岸並に浦鹽北支關門に運航せし外鴨綠江運輸司所の鴨綠江命合航路、鎭南浦汽船會社の大同江航路等殆んど大正四年と相異の點なく唯時局の爲め船價傭船料運賃等非常の昂騰に逢着し從來朝鮮沿岸に來航する船舶中有利の航路に趨る者多かりし爲め朝鮮北鮮浦鹽關門航路の如きは頗る好況を呈したり而して本年の海運界中特筆に値するは十一月初旬鮮內農作豐穰穀類の內地移出引合ひ滔々積み出さるゝに至るや廻船減少せる商船尼ケ崎汽船の航路は非常の船腹不足を來し各港殊に釜山仁川、群山、鎭南浦に於て滯貨山積其の惡影響の甚しき爲め無論囂々として高かりき幸ひ運賃は頗る高率となりしも歲末商船尼ケ崎兩社船の臨時航路並に朝鮮郵船會社にて自由航路より船繰し群山より二回木浦より一回釜山より四回の阪神航路を特發せし爲め若干滯貨を緩和したれど鐵道の連絡貨物輸送制限其他の事情は節季末迄堆貨山積の弊を釀して越年せり尙ほ本年は船主の採算上の關係より朝鮮入籍の大型船多く三千噸級乃至五千噸級船七隻籍を朝鮮に入れしも內永田丸（海州碇泊）は十二月上旬ポートサイド沖にて獨逸潛航艇の爲め擊沈されたり

十一、通信

大正五年に於ける朝鮮通信事業は一般經濟界の順調なる發展に伴ひ其の收入の如き之れを一月より十二月までの歷年に見て三百七十四五萬圓に達し前年に比すれば二十萬圓內外の增收を示し居れり郵便貯金は各方面の獎勵と好景氣の影響を受け時に一張一弛あるも大勢增加の趨勢を辿り其の十二月末の現計は九百八十五萬圓を算し明年三月の年度末迄には一千萬圓臺に達す[illegible]りと云ふ新施設として大邱[illegible]西大門兩郵便局外二三局の新營京城、郵便局の增築を擧ぐべく郵便局所の增減は增設に於て郵便局若坪外三郵便所七あり廢止は郵便局三にて結局郵便局は一局の增加となり居れり電信電話の事務開始は總數十五箇所電話取扱所は三電信取扱所の新開は五而して電信線の新設延長は三十五里を算し遞送線路の延長は八十七里鐵道便の延長は百〇七哩なり尙ほ全州及び咸興の二箇所に電氣事業の許可ありたり

京城雜筆

山縣生

▲三井物產會社の京城支店で此頃漢字のタイプ、ライターを賣出したそうで、過日それで刷つた見本の送附を受けたが、文字も印刷も甚だ立派で、殆ど申分が無い。唯これが實用に適するか否かは一の疑問である。

▲三井物產會社の如き確實なる商社で、之を賣出すに至つた事實から推察すれば、必ず實用に適するのであらう。會社でもそうであると明言して居る。然し何千といふ多數の漢字を打ち出すことなれば、此器械を用ゆるには余程の熟練が要るであらう

▲どの位の速度で打出すことが出來るものか知らぬが、少々手間取つても此器械が實際に用ゐらることが出來るならば、官廳會社商店等では非常なる便宜を得るであらう。筆寫はカーボン紙を用ゐても多くも三四枚程しか複寫を取ることが出來ぬ然しタイプ、ライターならば數枚取ることが出來て、其上手際よく出來、且つ紙を多く要せざる利益がある。

▲タイプ、ライターを打つことは西洋では一の職業となつて居る。若し漢字タイプ、ライターが實用になるならば之を打つことに熟練せる人はこれに由りてよき俸給を取ることが出來るであらう。殊に婦人の職業として持つてこいである。私が若い女であつたら、今からすぐ稽古を始めるであらう。

▲タイプ、ライターといへば公文商用文等には之を用ゆるに限るが、然し友交的の私信に之を用ゆることは私の好まぬ所である。タイプ、ライターで書いてある手紙には親みが無い自筆で書いてある手紙を受取つた時に親しく其人と語をして居るやうな氣がして甚だ嬉しいものである。

▲此意味に於て私は印刷した年始狀を甚だ好まない。印刷した葉書や名刺やなどで新年の慶賀を述ぶるは、いかにも形式で、誠意が無いやうで、好ましくない。年始狀を出すならば自分で書きたい、けれどもいつも多忙であるから多數の知己友人に一々自筆の年始狀を出す閑がない。そこで私は甚だ勝手ながら數年來一切年始狀を出さぬことにして居る。

▲其代り私は平常閑さへあれば友人へ手紙を出すことを怠らぬやう心掛けて居る。毎日數通づゝ手紙を出さぬことは殆ど無い。それから人から手紙を貰つた時には必ず返事を出すことを規則として居る。但し年始狀に對しては此限りに非ず、大抵は返事を出さぬ。出しても閑を見て書くので、いつになるか分らぬ。

▲私が年始狀を出さぬから、中には不都合だと怒つて居る知人があるかも知れぬ。[illegible]位の事で感情を惡くするやうならば、交りを續けて欲しくない。絶交されても私はかまはぬ。隨分勝手な理屈であるが私は形式が嫌ひであるから、かやうな非常識の事を敢して居るのである。然し世の中は習慣もあり、形式もあることなれば、私のやうに偏屈な事を言つて居ては所謂成功者となれぬ私の眞似をしやうとするやうな愚者は何處にもあるまいけれど、萬が一にも其やうな人があるならば、私は眞實に其人に忠告する、『狼と共に居るならば狼の如く吠ねよ』と。

『大正の青年』と帝國の前途を讀む（八）

十二月十二日上海に於て　大谷光瑞

以夷、制夷、外交妙術を以てして、國敗れ、地割れ、自強して軍を練らば強敵を挫き、國威を揚ぐ。古、春秋戰國の時曹、齊を恃で宋に聽かず、齊楚を攻るや。宋、曹を滅せり。楚、吳を恃て齊に聽かず、越、吳を伐つて齊、楚を滅す。許、楚を恃で魏に聽かず、楚、宋を攻て魏、許を滅す。鄭、魏を恃で韓に聽かず、魏、楚を攻て韓、鄭を滅す。今白耳義英佛を恃で獨と戰ふ、英佛の援至らざるに遂城既に拔れ、國都遂に亡す。塞耳維英佛露を恃で獨墺と戰ふ、露、獨墺に敗れ、獨墺、塞を滅す。此時英佛の援至ると雖も、微力如何ともする能はず。羅馬尼露英佛を恃で墺と戰ふ、此時露新に墺を敗り、ヴォルヒニアを回復し、ガリシアの東半を奪ひ、正に西してレンブルヒを襲ひ、南してカルパト山脈を越ゑんとす。而して英佛亦ソンム河畔に獨を敗り、氣勢大に揚る。而して羅國四十餘萬の大軍を以て、北カルパト山を踰ね、後シルバニアに侵入し、皆云ふ、戰勝期を待つべく、洪牙利の大平野に出るは、三月を待たざるべしと。何ぞ知らん元帥[illegible]ケンゼンの勃牙利の精兵を率ゐドブルヂヤに殺到するや、一擧してツルトアイを失ひ、二萬の成兵を敵に委し、再戰してチヱルナヴオタ、コンスタンツアに至る鐵道の南側までを放棄す。此時獨帝新にヒンデルブルグに參謀總長の任を命じ、前任のフアルケンハインをして別に軍を率ゐカルパト山に向はしむ。爾來三月を經ざるに、羅軍連戰連敗、朝に一城を棄て、夕に一鎭を失ひ、南に東に西に敵と爭うて、失はざるなく、棄てざるなし。遂に十一月下旬より、南北兩軍一致合擊カルパトの險阻も、ドナウの天塹も、全墺の敵軍を阻止するに足らず、首都既に陷り、良田、美穀、軍械、皆擧げて敵の用に供せざるなし。時露軍救はざるにあらず、モルダヴキアに、ドブルヂアに、ワラヒアに、大軍重兵を送り、羅軍と協同、以て敵に當り、猶事急なるに及んでは、ブコヴキナ、モルダヴキアに强襲を行ひ、敵を牽制せんとす、而して敵の壓迫益々急を加へ、露軍の効なし。英佛又援げざるに非ず、六兵を西北に進め、モナスチールを回復し、勃牙利に打擊を加ふと雖も、羅國の急に對して敎針の牛角を螫すが如し。自ら救ふ能はずして、他の援に依て存せんとす、他能く救ふと雖も、終に存する能はざるなり。

蛇と巳（上）

烏堂

◇蛇に關する傳說の多い中に、我神典に採錄されてゐる最も古きは、從來の說に從へば、彼伊邪那岐命の斬り玉ひし[illegible]火ノ神の血より成り出でませし[illegible]神の第七神、闇淤加美神を擧げざるを得ないが（谷の蛇だといふから）此神正しくは、次の闇淤加美神と共に他の六神をも併せて神代初期の收穫の神で、二神は其の仕舞方の神である。闇淤加美は當時の神木鳳凰樹—の名は黑木の肌に著くる棕梠毛に當り、闇御津羽は末の棕梠葉に當る。即ち伊邪那岐命の其時用ゐ給ひし尾羽張刀とは、此尾髮と尾羽を刈り給へるよりの名尾羽張は今『終り』の語となつて居る。併し偶然にも此棕梠毛と蛇に大關係のあることは後に語る。

◇次に古い傳說は須佐之男ノ命の出雲に於ける大蛇退治の傳說である。是れ蛇と酒と劍の關係傳說で、此大蛇の尾より草薙（叢雲と同語）の出でしといふは、此御劍が前の尾羽張ノ神劍に相當する暗示記錄である。宜べ此御劍は長く文化宣傳神の記念神器として、國も尾張（尾羽張の約）の熱田の宮に齋はれ玉へること。

◇第三は大津日高日子穗穗手ノ命の妃豐玉姬の身を蛇體に現じて、御子を產みませしとの傳說である。是れ豐玉姬の生國海神の國が須佐之男命の大蛇國—出雲であることを暗示するもので、同時に又女と蛇の淺からざる關係を語つて居る。

◇第四は人皇の御代に移る。人皇さばいへ、猶傳說時代、時の帝伊久米入彥伊佐知命の御夢に入りし小蛇を妃佐波遲姬の手にし玉ひし小サ刀の紐の關係である。

◇神典に採錄さるゝ蛇關係の傳說は誤られたる闇淤加美神を除き、他の三件であるが、こゝには蛇又巳の語源關係は殆ど見出し難き深處に隱れて居る。

◇が言語は確かに鳳凰樹から生れてゐる。少くも皇國の言語は其源を其樹の木蔭に辿らねばならぬ。蛇といひ、巳といふも亦然らざるを得ない

◇神代の神木、鳳凰樹は產巢日の木であつた。大嘗祭の大御酒、主基を持ち仕へ給ふ主基の御神、少名彥は主基の採取に象徵を假りてゐる。主基の大御酒は元始に在つては鳳凰樹の幹上方に小孔を穿ち、管を通じて、之れを酒甕に導く點滴であつた。少名彥を小サ神と傳ふるものは其點滴の象徵である。此神『ひむし』の皮を全剝に著『かゞみ』の船に乘るとある。又高木の神の手俣をくゞり出たともある。『ひむし』の皮とは產巢日木の皮『かゞみ』の船とは酒槽である。高木神は主基を分泌する木で、其手俣とは、手の如き葉の附根である。主基の酒は其邊の小孔から滴るからである。

◇高天ケ原では大御酒を樹木と共に神の宿とし、引いて神とも崇拜し、又た此大御酒を悠紀主基と稱へ又宇美（須美とも呼んだ。黑木白木の二性の大御酒であるが、產巢日とは宇美（須美を合せた形で、神の義に當る此記號約して『うし』『ぬし』（主）『むち』（貴）など轉つて居るが、又其まゝ『おむみ』（臣身）『おほなめ』（大嘗）などの語となる。大嘗が此記號であることは、後成恩寺禪閣以來故實家の氣附かざる所である。

大正五年の財界所感（三）

漢城銀行專務取締役　韓相龍

補助貨幣の缺乏

秋季出穀期若くは節季の頃に到れば補助貨幣の需要頓に加はるは每年の例とする處なりしが昨秋に在ては特に甚しくして遂に缺乏を訴ふるに到り、各地商家及び小取引者の困難を感ずるに餘りあり、而して地方銀行に在ては所在地に於て調達し難きより多少の出費を忍びて遠く他より供給を仰ぎたるの聞へありたる一般の不便都鄙を通じて容易ならざる狀態ではなれり。更に聞く母國貨幣市場も近年補助貨幣の流通潤澤ならずして一般の取引上圓滑を缺ぐこと甚しく諸工業の隆昌と共に、多數工場方面の需要激甚を加へ之れ亦大缺乏を呈したりと云ふ。如斯補助貨幣の拂底が母國朝鮮共に其狀態を均しくせるを視れば、通貨の膨脹に伴ひ補助貨之れに副はざるに原因するものならん乎。鮮地流通補助貨の缺乏も其幾分は銀價昂騰の結果或は滿洲方面其他へ流逸したるなるべし。最近銀塊相場は三十六片以上の高位を示し奔騰を呈したれば金銀比價の均衡を失するに到らしめたり。之れが起因は歐洲戰亂の爲め銀鑛採掘量減退せる處に滔々たる需要の激增は彌が上にも奔騰を示せるものなり。傳へ聞く當局に在ては夙に大藏省に對し數回の交涉を重ね日本銀行より補助貨の移入を受くることゝなれりと。之れ實に旱天の潤雨たらん乎。然て之れが撒布は急迫せる貨幣市場を緩和する遠きにあらざるべし。要するに朝鮮に於ける補助貨幣の需要は秋季出穀期を第一とし盆節季之れに次ぐ、而して秋季に於ては一般取引の外納稅に要する小貨の需要も相應多額なれば一時缺乏の聲喧しきも納期を過ぎれば國庫收納の補助貨隨時支出せられ市場に現するに到るべしと雖も、或は此場合反對現象を呈して補助貨過溢を現するやも知るべからず。昨去如上銀價騰勢の時節なれば國外流逸の傾を生ずるやも保し難かるべし

輸送力の缺如

玆に又一問題あり、近は朝鮮貿易殷盛期に際し船腹不足の問題起りしこと之れなり。寶に此事件たるや貿易上に一頓挫を來したるのみならず、一般財界上に影響を及ぼしたるを遺憾とす。夫れ米價好調、出廻旺盛、輸移出期接近等の事情相俟て母國へ輸出を旺盛ならしめたるも船腹不足の爲め、[illegible]港頭に未曾有の滯貨を現するに到りしかば、鮮鐵當局に在ては專ら最善の方法を取り、貨物の疏通を圖られしと雖も港口の荷捌き遂捗せず、釜山、仁川、木浦、群山、鎭南浦等の埠頭には米穀山を成し保管場所さへ之れなきに到れりと云ふ。殊に下關以東山陽線に於て一定の制限連絡貨物は山陽線經由阪神地方行以上は輸送不可能の事情ある等にて結局發送地たる朝鮮に於て輸出制限を加へざるべからずと爲し、該方面行貨物は遂に一時輸送中止の發表を視るに至れり。又神戶港に於ても滯貨夥しく之れが始末に困じ居るものゝ如し。如上の事實は財界上重大視せらるゝ處なれば吾人は陸海兩方面の輸送にして一日も早く疏通完からんことを祈るや切なり

船舶出入噸數

船舶の出入噸數統計の示す處によれば昨年一月以降十一月迄の入港噸數二百八十七萬噸出港二百八十五萬噸なりとす。之を一昨四年に比すれば入港に於て七十四萬噸出港に於て七十萬噸孰れも減退せしを視る。以て海運の缺如せるを知るに足るべし。次に海關稅如何を視れば昨年は四百七十三萬圓にして之を一昨四年に比すれば七十九萬圓の增加なり。近は船舶出入噸數に於ては下りたりと雖も昨年は輸出貨物の活況と物資の價昂騰の關係上增收を來したるものなるべし。

滯貨の影響如何

滯貨の影響は財界上重大なるは前述の如しと雖も、今後の情勢如何によつては多少留意すべき要なきにしも非ずと信せり。現に金融各銀行に於ける穀物擔保貸出十一月現在は約一千萬圓なりと云ふ。此資金たるや荷爲替となりて貨物目的先へ輸送中に係るもの若しくは中途抑留せられたるもの又は停滯貨物となりて各港倉庫へ保管中のもの或は時期見送りの分等勘少ならざるべし。斯く觀じ來れば貨主の不利は少なからざるのみならず市價の變動により損失を釀すなきや保し難く、將又金融切迫の爲め進退谷まる貨主なきやも計り知るべからず。斯る事情に立至るさせんか一般市場は萎靡不振[illegible]の觀を呈するなきや。

昔時朝鮮の商取引は極めて悠長なりしと雖も電信電話の普及と運輸交通の便開けし以來敏活機微を爭ふ如くなり來りしは、時代進步の然らしむる處にして、現時の情況は最早此悠長を許さず、假令短期中なりと雖も物資の停滯は當事者の苦痛とする所況んや市價の變動甚だしき物資たるに於てをや。試みに大阪及び仁川との定期米相場の比較差額に據れば去る十一月頃高きは四圓七十錢低きは四圓二十錢の開きを表はせり。而るに船腹問題惹起せざる以前即ち平日の場合に在て視れば其差額約二圓內外なりし。而るに四圓乃至五圓近の程度を往來しつゝある原因は運賃高騰金利庫敷等の關係より例外の差を生じたるものと了解し得べしと雖も今後多少とも輸送力增加し滯貨疏通せられたらん曉に至れば如何なる場面を現はすや這は玄人筋の非常に怠らざる處ならん。左るにても世上喧せる如く米穀の洪水は輸て騰落を餘儀なくせしむるものとせば前途の財界上多少懸念なしと謂ふべからざるなり。

金融機關の動靜

近年金融機關の發展實に長足の進步を示したる之れ財界膨脹の結果なり而して其趨勢の程度如何は玆に簡單に數字を以て其一端を表し以て參考に供せん

全鮮各銀行預金貸金現在高

	大正五年十一月末	大正四年十一月末	比較增減
預金	[illegible]	[illegible]	[illegible]
貸金	[illegible]	[illegible]	[illegible]

漢城銀行預金貸金現在高

	大正五年十一月末	大正四年十一月末	比較增減
預金	[illegible]	[illegible]	[illegible]
貸金	[illegible]	[illegible]	[illegible]

京城各銀行手形交換高

年　內	手形枚數	金額
大正五年十一月中	[illegible]	[illegible]
大正四年十一月中	[illegible]	[illegible]
大正三年十一月中	[illegible]	[illegible]

備考　預金貸金の現在高は公金其他特種の分を除きたる對民間預金貸金額なり、手形交換高は各年十一月一ヶ月分の交換高なり（完）

日報新年詩壇

○丁巳新年口號　大內夏畦

南山北嶽彩雲重。東里西村瑞氣濃。同酌屠蘇迎歲旦。酡顏亦是太平容。
朝暾杲杲綺霞中。旗影春生萬戶風。忽放清香殘雪裏。梅花一笑促詩筒。

評曰　撰是太平之作後首殊[illegible]

◎四帝維也納に會せん
各國代表者の伯林會見

●中歐●●●●アムステルダム來電に依れば獨、墺、勃、土の各皇帝は近々維也納に會合すべく尚ほ前記各國の外務大臣及び國會代表者は來る十九日伯林にて會見すべし(香港電報)

◎支那政府の反省を求む

五日行はれたる日支談判は僅に一時間にして終了したり同日林公使は日本政府が支那に要求せる警察權及び顧問案件は既に十分の讓歩をなせるものにして此の上讓歩の餘地なき旨を告げ且支那政府にして依然其の主張を固持するは却て不利を來すものなるを明言し支那政府側の反省を求めたり故に當日は何等事實に對する討論は之れを行はざりき(北京特電)

□滿殿に充つる瑞氣
新年宮中の御宴

天皇陛下には五日正午宮中豊明殿に各皇族、文武官並に外國使節等千百五十四名を召され盛大なる新年宴會を開かせられ給へり會場に當てられたる豊明殿は國運の旺盛ご共に狹隘を告げたるを以て更に千草の間南溜の間東溜りの間をも打ち通じて會場となせられ十二時五分 天皇陛下には陸軍式御盛裝に大勲位菊花章並に功一級の大綬を御佩用遊ばされ戸田式部長官波多野宮相の御先導にて出御參列の文武高官一同起立最敬禮の中に豊明殿正面に設けられたる玉座に著かせらる斯くて 陛下には開宴に際し先づ群臣一同に左の優渥なる勅語を賜ひ次で寺內首相恭しく御前に進みて奉答し次で英國大使グリーン氏は駐日外國使臣を代表して奉答する處あり茲に於て群臣一同著席し御宴に移るや先づ初獻を 陛下親らきこしめされ次で各皇族並に內外文武官と順次に宴を賜はる御開宴中は窓外にて式部職のかなづる萬歲樂、延喜樂絶えず御餘興を添へ奉り一方閑院宮殿下には東溜の間に賜宴の有爵者を犒はせられ宮中大奧にては 皇后陛下の各宮妃殿下を召されて新年の御內宴を開かせらるゝなど當日の宮中は滿殿瑞氣を以て充たされたり斯くて 陛下には午後一時半入御あらせらる次で各員退出せり(東京特電)

勅語

新年ノ佳辰ニ當リ各國代表者並ニ諸大臣等ト祝宴ヲ開キ歡ヲ共ニスルハ朕ノ滿足スル所ナリ茲ニ友邦ノ君主及大統領ノ健康ヲ祝シ併セテ交際ノ倍々親密ナラムコトヲ望ム

奉答
(寺內首相の奉答)

茲ニ新年ノ佳辰ニ當リ群臣ヲ御宴ニ召シ且ツ優渥ナル勅語ヲ賜フ臣等感激ノ至リニ堪ヘス臣正毅群臣ニ代リテ 天恩ノ厚キヲ謝シ恭シク聖壽ノ無疆ヲ祝シ奉ル

奉答
(英國大使奉答)

陛下ヨリ賜ハリタル優渥ナル勅語ニ對シ本使ハ外交官一同ヲ代表シ茲ニ至深ノ謝意ヲ表スルノ光榮ヲ有ス恭シク惟ルニ本使ノ代表スル君主及ヒ大統領ニ於テモ亦 陛下ノ勅語ニ對シテ深ク滿足セラルヘキヲ信ス本使等ハ新年ノ此ノ佳節ニ際シ恭敬ナル祝詞ヲ 陛下ニ呈スルト共ニ衷心ヨリ 陛下皇后陛下及ヒ皇族各殿下並ニ同妃殿下ノ健康ヲ祝シ奉ル猶ホ本使等ハ日本帝國ノ安寧及ヒ日本國民ノ幸福並ニ日本國ト其ノ友邦トノ間ニ於ケル交誼親善ノ爲ニ 陛下ノ治世隆昌ニシテ悠久ナランコトヲ懇祈ス

◎露軍各方面に優勢

モルダヴイア方面に於て敵はセント河の西方に猛烈なる攻擊を加へ來りしも我軍は之を擊退したりドブルジヤ方面に於てブライロフ東方十哩なる地點に於て終日激戰の後我軍はダニコーブ河北方へ向け渡河を開始したり敵は此の戰鬪に於て多大の損害を被りたり(露都電報)

▲羅軍前面の勝利

露國公報に曰く我軍はポーシユ山の南方羅馬尼軍前面の敵の諸砲地を攻擊し六百名を捕虜とし大砲三門機關砲十六門を鹵獲したり(倫敦電報)

●春川より

▲武術納會 春川警務官憲武術納會は二十八[illegible]備隊及び春川分監より劍士[illegible]劍士は[illegible]長其他十數名と[illegible]等に就き協議すべ[illegible]萬四千以を領取り三十日午前大阪神[illegible]

●平壤局ご年賀郵便

十二[illegible]七聯隊より差出したるものゝみにて[illegible]たりと亦從來の少數なりし[illegible]

◎英軍襲擊して成功

ヘーグ元帥四日夜の公報に曰く我軍はアラーの東北なる敵の塹壕を襲擊して成功を收めウイチエート附近の諸陣地に二回突入したりアルマンチエーの東方にて敵の一部隊の我に向て攻擊せしを擊退したり(倫敦電報)

◎青木中將歸朝談

支那軍事顧問に招聘さるゝに決し歸東の途に就きたる青木中將は六日朝上海より門司入港の郵船熊野丸にて到著海路神戸經由東上せり其の船中に曰く予は軍事顧問に付ては何事も知らず予は支那に在ること十一箇月北京へ一度南京へ二度行きし外多く上海にありたり支那の事は總て混沌として不明なり滯支中經驗せしは唯日本酒の嬉然と醉はするに對し支那酒の陶然たらしむる位にて何も分らず段總統一派の官僚派と唐紹儀一派の民黨派は爭鬪止まざるべし孫文氏は近頃實業に身を立つべく聲明せるが是れ支那にては地位と金を作らんとせば官途以外に方法無しと思惟せるに對し自ら實業に據りて地位と金を作り從官の弊を矯正せんとするにあり內地資金の支那投資に就ては支那各省は諸種事業の計畫あるも資金に缺乏せるより歡迎すべきも從來の如く直に中央政府に依らず先づ地方に交涉すべきを宜しとす尚ほ其れと共に誠實の二字は缺くべからざる者なり革命は今や一般民疲弊せる故再擧は困難なるべし

▲宮崎滔天氏談

尚ほ同船にて歸來せる宮崎滔天氏は曰く青木中將の招聘は事實なるべし支那は民黨官僚黨の爭鬪は水と油の相融和せざると同樣にて調和は困難なり南方にては今唐紹儀氏を首領とする一大政黨組織中なり南京にては馮國璋擴張により尚ほ米國の滿足に親米熱盛んとなり支那官僚黨一派は遂に孫逸氏を會長とせる米中協會を作り盛大なる發會式を擧げたり(門司特電)

◎陸軍始觀兵式 豫行

天皇陛下には八日午前十時宮城二重橋外苑に臨御陸軍始觀兵式を行はせらるゝに付き六日午前十時より宮城前廣場に於て近衞師團近衞騎兵同野砲兵同輜重大隊其他の參加部隊一萬七千餘名は各部の指揮官に引率せられ各所定の位置に參集し諸兵指揮官東京衞戍總督松川中將指揮の下に之れが豫行をなしたり(東京特電)

◎青森市長辭職

工藤青森市長は今回辭職せり議會解散後の候補準備の爲なりと(青森電報)

◎皇后宮御詞
●●●●閑院宮殿下の御沙汰●●●●

日本赤十字社總裁閑院宮殿下には去る二十一日御參內相成りたるに 皇后陛下より難有き御詞を拜したりとて社長並副社長參殿の節傳達せられたる御沙汰の覺書及び右に關し花房社長の社員に對する諭達左の如し

予は昨日參內の節 皇后陛下より有難き御詞を拜したり茲に捧讀して卿等に傳へんと欲す

大正三年以來ノ歐洲戰ニ際シ日本赤十字社ニ於テハ博愛ノ精神ニ基キ救護班ヲ組織シテ遠ク海外諸國ヘ特派シタルニ孰レモ顯著ナル功績ヲ擧ゲテ非常ナル好評ノ下ニ先頃全部歸朝シ夫々ノ國ヨリ至誠ヲ籠メタル感謝狀及ヒ勳章ヲ受領セルヲ聞及ヒ至極滿足スル所ニシテ又吾カ赤十字社ノ永ク記念ス可キ事柄ト存ス

斯の如き優渥なる御詞を拜するは畢竟卿等の盡力の效果にして厚く其勞を謝す特に赤十字社職員は將來益々奮勵努力せよ

右は總裁閑院宮殿下同妃殿下大正三年十二月二十二日前英國駐箚大使子爵井上勝之助同夫人前佛國駐在大使子爵本野一郎同夫人花房社長小澤松平兩副社長各理事石黑男爵德川[illegible]婦人會長兩副會長を晩餐に召させられ[illegible]殿下より拜承せる處也實に本社無上の光榮にして救護員は勿論職員及び社員一般益々奮勵努力以て盛旨に副ひ奉らん事を期す可し

大正五年十二月二十三日

日本赤十字社長 子爵花房義質

◎東淸長官祝電

大屋鐵道局長官より在哈爾賓東淸鐵道長官ホルワット將軍に對しクリスマス及び新年の賀狀を發したるに去る二日左の祝電に接したり

新年に際し繁祉を切望し奉る且つ貴我兩鐵道の協力は兩國相互の利益を增進せしむ可き日露同盟を益々鞏固ならしむる所以也と信じて疑はざる次第也

新年所感(中)

三井物產會社京城支店長 高野省三氏談

▲根底は鞏固

日本のみに就て見る時は、歐洲戰亂の好影響を受けて對外貿易の決濟額、軍需品の輸出運賃保險料の收得其他に於て開戰後十億圓以上の富が增したといふ事は疑ふ可らざる事であるし、尚ほ例令戰爭が中止せらるゝと雖も、歐洲の秩序が回復せらるゝまでは、今日までに獲得したる我商品の勢力範圍を直ちに失ふといふ事もなからうと思ふし、又米國其他各國の通貨膨脹に伴ふ結果として我が生糸其他の商品の輸出が旺盛になるといふ事もある故、日本の貿易關係は急轉直下輸入超過になるといふ事もなからうと思はれる。故に此等の事を考へて見れば大正六年の經濟界も平和の成行如何によつては一動搖を免れないと思ふけれども、然かも其根底は充分に鞏固で健全であると思ふ。總ての事業を爲すに就ても此點に深く留意する必要があらう

▲平和克復ご日本

又英國を始め交戰各國が假りに遠からず和を結ぶに至るとするも、其秩序回復には相當の時日を要すると思はれるのみならず、壯丁の死亡及び負傷其他に原因する勞銀の騰貴といふ事は、逃も免れない事であらうし、又通貨の膨脹に伴うて物價の騰貴は免れぬ事と思はれる故、強ち平和克復後と雖も日本の經濟界並に貿易關係を悲觀することもなからう、併し大正五年の如き殷賑を夢みる事は間違ひであるかも知れない。

▲戰後の戰爭

此機會に於て特に申上げて見たいことは戰後に於ける戰爭に對する各國の準備行動が顯はれ來れる一端に就てゞある。尤も此事は未だ具體的に決した譯ではないが、其の一端を見ても各國の準備の如何に大であり堂々たるかを推知し得る。例へば獨逸に於ける汽船會社の大合同、染料會社の大合同計畫の如きは其の好適例であると思ふ。又聞く所によれば米國に於てはトラスト排斥法案に對する排斥論も起り居るといふ事である、之を一言にして盡せば、戰後に於ける戰爭は大資本の結合によりて大々的に行はれるものであるやうに考へられる。矢張り日本に於ても種々なる此種の計畫があるやうであるが、若し斯かる大計畫の下に各國の競爭を日本が受けるやうになれば、其結果については聊か憂慮すべきものがあると思ふ。然かし要するに、一時は動搖する事あるにしても、我が經濟界は既に實質が良くなつて居る故に、將來益々健全なる發達をなすに至るであらうと思ふ。冷靜に考ふれば敢て悲觀を要せぬであらう。

◎朝鮮商銀營業成績

大正五年下半期に於ける朝鮮商業銀行の營業成績を聞くに一般金融界の狀勢により成績良好にして預金貸出共に非常なる增加を來したるが中にも預金の如きは百六十三萬圓餘に上り之を前年度同期に比すれば五十七萬圓餘(即ち六割弱)の增加を示し利益金も多額に上りたる由なるが此際銀行の基礎を益々鞏固ならしむる爲め未經過割引料及び未拂利息等の勘定を起し利益金の中より相當の額を控除して次期に繰込み當期に於ては約五萬圓の利益決算を了したりと云ふ

■南言北語■

露都の宮殿內で皇帝陛下の僧侶として御親任頗る厚かつた怪僧グレゴリ、ラスプチンが何者にか慘殺せられて死體はネヴア河の氷結中の穴の中から發見せられた▲露都では屢々稀なる珍事が內政上から演行せらるゝ事もあるが▲ラスプチンの慘死は何だか今迄あつた內政上の關係即ち革命黨の手に依つて敢行せられたのとはチト異て居る樣だ▲ラスプチンは非常な反獨派であつて露國內から獨逸の勢力を驅逐する事に全力を注いで居た人である由來露國には上下を通じて親獨派の人が多く彼の前首相の如きも獨逸と講和の陰謀を企て居たと評判せられて居る▲獨逸が密に露國に單獨講和を強いんとした事實もある▲今回の獨逸講和提議に對してもモスクワで商事を排して協商國側に於ける第一番に拒絶を決議したのも其の間因のある事は疑はれる▲獨逸の探偵は反獨派の領袖たる此のラスプチンを何時も付け覘つて居たのである▲今回の悲劇も恐らく此間の消息を知る者は首肯する事が出來やう▲講和問題で鳥渡戰場をのぞかなかつたが獨逸は相も變らず活動して居るらしい▲現に巴爾幹に於て羅馬尼攻擊に從事せる兵力中約三十萬內外の獨墺軍は目下豫備隊として休養して居る樣だから愈々講和が破裂となれば此の兵力を以て何方かの戰場で新活動を始めるに相違ない▲マッケンゼンは最近羅國ソレキアの北端リムニクサラツ市を奪取し將に境界を越てモルダビヤに侵入せんとして居る▲ドブルジヤ方面の獨勢軍も逐次北進してブライラ要塞に迫つて居る▲之で見ると獨軍は更に羅軍を壓迫しベッサラビヤに驅逐せんとするらしい▲其うなれば露軍の左翼戰線に直接重大な影響を及ぼす事になる▲年改ると共にサロニカ聯合軍の活動こそ又た觀物であらう大に其の活動を期待する

恭賦遠山雪　落合　東郭

積素遙山擁翠空。朝暉映發玉玲瓏。君王登眺炊煙外。呈瑞先看兆歲豐。

御題遠山雪　丁巳歲朝恭賦得。　犀東　國府　種德

圭璧千峯玷亦無。晴曦曉色照平蕪。者番淸白融成水。流到人寰潤萬朱。

恭賦得遠山雪　圓山　太嶺

夢回淸曉拂簾鐘。雪擁天涯第一峰。八面玲瓏多瑞色。巍然永作衆山宗。

大正丁巳元朝　鹿峰　千葉　昌胤

獨未春風欵我門。一寒如舊腐儒飧。去年先輩頻分袂。吉旦誰人共對樽。願以文章扶世道。老無疾病亦天恩。賀箋裁就付郵吏。煙柳訪過城外村。

大正六年元旦作步刀水先生之韻　九洲　野人

聖德如天洽萬人。海東波靜不揚塵。衣冠何幸逢淸世。遙祝吾皇第六春。

朝鮮彙報

朝鮮彙報　大正六年一月一日（定價貳拾五錢 郵稅二錢五厘）

主要目次

口繪　遠山の雪（三色版）　李王職牧馬事業　樂浪及高勾麗時代の古蹟

■歲首の辭
■長谷川總督訓示
■大正五年に於ける朝鮮

◎寺內前總督告別記念寄贈金の頒與◎各道行政區域名稱一覽表（全羅北道）◎大正六年度朝鮮總督府各特別會計豫算綱要◎十一月中朝鮮貿易◎十月中經濟概況◎大阪府朝鮮貿易◎李王職牧馬事業概要◎乾繭器の普及狀況◎アカマツ一年生苗の床替密度に就て◎大正四年保險事業成績◎十一月中の鐵道運輸◎鐵道倉庫營業開始◎朝鮮司法制度沿革◎私娼取締に就て◎戰後の獨禍

□內地學校觀察報告……平壤女子高等普通學校長　渡邊 [illegible]
□普通學校卒業生指導方法……沙里院公立普通學校長　堀 捨次郎
□鬱陵島の森林植物……總督府技手　石戶谷 勉
□大邱各市概略……大邱府尹　竹崎六次郎
□忠淸南道蠶業十年計畫……忠淸南道報告
■樂浪時代の遺蹟……工學博士　關野 貞

▲投稿を歡迎す　原稿締切期限每月十日
▲販賣店　京城大阪屋號書店・巖松堂京城店　其の他朝鮮各地の書店に販賣す
▲廣告料　一頁十圓　取扱店　京城　ウツボヤ書籍店

幼年の友

新年増刊

タカラブネ

特許出願 仕掛付の表紙
長編繪畫 三萬噸の寶船

寶かざりの子供がさげた輪の中から出たり出たりいろ/\のお寶船

地中海で沈んだ日本行の寶船が龍宮の乙姫に拾はれて歸る長い物語

▲幼年科學 ▲お伽唱歌 ▲お伽輪講 ▲お伽探險 ▲お伽漫畫 ▲お伽寶船 ▲打出小槌 ▲おとぎ新聞

一冊二十錢 郵稅五厘

東京京橋南傳馬町 實業之日本社

實業界

は純粹の商工經營
實務研究指導機關
新版應用自由自在

本號に限り定價金
四十錢送料三錢
紙數一八〇頁の大冊

新年擴大號　卷頭の目次を看よ

(目次)　(大要)

═久保濱流の仕入法と其多賣法(大原支配人)
═商工業者今年の目標如何(井關)　═會計と工場經營の要諦(吉田)
═店員訓練及待遇法(小林)　═小都會商店經營論(記者)
═世界の大勢 產業的友愼(濱澤博士)　═雜貨店經營法(加藤)
═必ず利く廣告書簡と其書方(依田學士)　═豊富なる飾窓畫報
═應用廣告作例數多　═廣告家には何うしてなれるか 行へる商店の注意
═此の好景氣時代に乘ずる商策如何(高野外三大實際家)
═參考廣告作例數多　═中小地方商店の一大實務 企業及經營組織の考察
═最新營業 商品切手交換所物語　═新案商略集
═睡眠期の飾窓は何うして活すか乎(四大實際家)
═資金と能率及制度と要件(井關)
═小賣商店失敗の原因(濱田)
═全記事六十二題

東京市神田區三河町一丁目　同文館雜誌部　電話本局一五三九・振替東京二六七七

●南山をして大公園たらしめよ
敢て京城市民諸君に告ぐ
林學博士　本田靜六氏の談

私は、今回京城府から、其の管理する漢陽公園、南山公園に就て、調査を依頼され、二日に亙つてその邊一帶の地區を踏査して見たが、實にその規模の宏大なる若し之に進歩したる設計によつて相當の費用を投じ加工したならば、東洋有數の公園になり得るだらうと思ふ。今、私は感興の湧くまゝに、私がこの公園に就いて抱懷してゐる卑見を申し述べるから、希くは更に貴紙を通じて、此の問題に關する京城各方面人士の所懷を伺ひたいものである。(三日四日京城南行列車中にて)

私が後に述べようと思ふ世界に於ける公園の發達に鑑みるに、京城—否朝鮮全體の中央公園として私が今回實地踏査をした

◆南山位市に近接し
た好適地は尠ない、亦市の中央(龍山の發達した場合)にあの位大きな築山のある所は殆んど他に類が無いと言つてもよい、他に比類なき此の最適當の地を卜し今日經濟の許す範圍に於いて大公園の設計をするのはその時機を得たものだらうと思ふ日を經るに隨がつて

◆周圍の地積を取ら
れたり、人家が建てられたりして不利益となる、一日も早く公園設計の立案を爲す事は以上の點から必要な事なのである、即ち私が今回大體の案を立てたのは決して偶然では無いその第一は現在の漢陽公園の廣場を改良して南の方眺望の佳い地を選んで四方の風色を一眸に

◆收め得べき望樓を
造る、建物は純朝鮮式然かも固有の統軍亭とか望軍臺といふ性質のものを持つてくる、或は貴族富豪の所有にかゝる此の種の建物の寄附を仰ぐもよい、それには共同ベンチと同樣各人の出入を自由とする、それから今松の木の立つてゐる所に將來故伊藤公とか寺内伯とか朝鮮に關係のあつた人の記念碑の必然建設せらるべきを見越して

◆記念碑の臺丈設け
て置く、然して廣場一帶に芝草を植ゑる、此の芝も普通のでは可けない山にあるものをそのまゝ厚味に切り取つて來て敷く時は容易に枯損する事は無く廣場から周圍の崖一面に綠の毛氈を敷き詰めたやうな芝草原が出來る、第二は漢陽公園から直ぐ下の城壁に沿うた畑現果樹園のある所へ

◆緩傾斜の道を作て、
その附近の畑を公園附屬の果樹園にして桃、梨、李、杏、苹果、柿、棗、葡萄等朝鮮にだいて栽培し得る果樹を悉く栽ゑその附近には茶屋を開業させる、茶屋の周圍には美しい草花の類を澤山に栽ゑて置き花時には花見客を招び實の熟れる時には實をつけた樹を眺めながら

◆取り立ての果實を
出すやうにすれば營業として十分引合つてゆく、唯此の果樹園を經營する人を擇ぶ必要が大にある、第三には城壁の南東に家畜用農用動物舍を作る、此の附近は日當りもよし甚地などもあつて家畜を飼ふには好い所だと思つて調べて見ると矢張り昔韓國政府時代に家畜試驗場のやうなものがあつた所だつたさうだ、此處には乳牛、羊

◆山羊、雞、家鴨、鵞鳥
等を追ひ放つておく、附近には谷川があるので是等の動物を支配する者を置いて傍ら茶店を營業させる、その茶店では搾り立ての牛の乳、山羊の乳、産立ての卵などを定價表によつて賣る、市の人も公園の農用動物園に行けば牛乳もある

◆山羊の乳もあるこ
といふのでやつてくる、但し此處には日本人よりも此の部落の朝鮮人の若人を雇き茶店の者も朝鮮婦人の服裝を著けた者などを置けば面白いだらうと思ふ、果樹園にしても動物園にしても市に近い所で田舍の農家に見るやうな情景を見る事が出來るといふ所に興味を有ちたい、第四は展望臺、或はパノラマ臺である、現今

◆世界の大なる公園
にはその中の最も眺望のいゝ所にパノラマ臺の設備がしてある、之れはその土地に初めての者とか女子供が最も簡單に地理的智識を享ける事の出來るために効果があるからである南山公園では今回調査の結果、その頂上、現在巫子の祈禱所がある圓師壇の東南一丈四尺二寸餘の大欅と一丈四尺の

◆槐の大木のある間
に自然の地勢で展望臺の要求する所があつたのでその内から五間四面の敷地を選で其處に高さ十間以上の展望臺を造る

●總督　博物館、植物園から動物園へ
苑宥の『田が池にかはつた』と感慨無量

長谷川總督は六日の午後二時半から昌德宮に自動車を驅つた興化門には

■鷹峯嵐が　かなりに寒かつたが總督は相變らず鞠の皮の外套にカーキ色の軍服を著て齋藤、大島兩副官と神田秘書官を伴ひつゝドシ〳〵植物園から博物館及び動物園を巡覽した、植物園ではあの洋風白亞館なる植物本館で茶菓をとりつゝ丈高きボウゲンビリヤの桃色の花や香氣馥郁たる蘭園の

■珍花を賞　でた、殊に紅黄白紫眼も彩なる蘭花植物の花を見ては終始愛玩して推賞措かず戸外の零下十何度を物ともせず此處ばかりは汗ばみ相な溫室の花卉を充分滿足して觀られたのであつた、次に博物館では朝鮮古代の繪畫類が面白しとてなか〳〵の熱心に觀られたのであるが、それに新羅の

■古美術品　や高麗燒の品定めなども一入總督の眼をよろこばしたやうであつた、猶旺動物園へ向ふ途中では以前軍司令官時代に一二度來た時代とは全然別天地の觀ありとて此處の田圃が池になつたなど昔しの物語りなども試みられ動物園溫室に於ては河馬から九官鳥、猿類まで仔細に

■見物した　上名物のライオンは『相も仔有ちやなう』と笑顔も見せず聲句を吐いて更に自動車で官邸に向はれた、昌德宮からは関長官、尹德榮子爵、末松、玄事務官、呼子警察署長などが案内役であつた

●臺灣大地震
死傷者五十名

臺灣中部地方に大地震あり南投廳下被害最も甚だしく死傷者五十名に達し各地方に於ける家屋の倒壞其他の被害頗る夥し(臺北電報)

▲別報＝五日臺灣中部地方に强震あり死傷者家屋の倒壞多數の旨内務省に報告ありたり(東京電報)

●奉天日本赤十字病院の全燒
用水氷結す＝死傷者無し

五日午前一時奉天日本赤十字病院に火災起り見る見る中に建築物全部灰燼に歸したるも幸に死傷者を出さず用水は氷結の爲め用を爲さざりき(奉天電報)

▲惜むべき建築
醫員は現役の軍醫

奉天の日本赤十字病院は小西門内に於ける裏通りにある、周圍には支那家屋が建ち並んでゐるが商業會議所や民會の事務所、盛京時報社等も其の近くにある建物は煉瓦建の外觀堂々たるもので兎に角附近の支那街に異彩を放つてゐたが祝融子の災ひにかゝつたのは惜しい事である、殊に此の奉天赤十字病院は日本赤十字社の外國に於ける唯一の施設と云へないまでも主要な事業で奉天では滿鐵病院に相對し割安に又貧困者には無代に日支人の療養に從つてゐる思ふに五日の朝の奉天の氣溫零下二十度を下つたらうから水道のない奉天支那市街内の出火では用水凍結して手の下しやうがなかつたであらう、尚ほ醫員は現役の軍醫が當つてゐる。

●北陸地方
積雪五尺

北陸地方は昨今降雪甚しく積雪既に五尺以上に達し敦賀金澤間の拔雪汽車埋沒し二千五百人の人夫目下急排雪に努めつゝあり(東京電報)

●千代本の出火

南山町の料理屋千代本は六日の午後九時半表玄關の突當り二階仲居部屋に置きありし瓦斯爐より發火したるを折柄階上の廣間にて開宴中なりし大食組の客人某氏が發見しソレ火事だと俄に騷ぎ出し居合せたる人々總掛にて防火に力めたると近所の南山町消防隊が逸早く馳付けたるとにより約十分間の後鎭火したり損害は六疊二間の仲居部屋の襖或は天井を燒拔きたる位にて約百圓位なりしも附近は京城ホテル、花月、巴城館等の家込の場所とて非常に混雜なりき

●變化に富んだ
新番附

新番附を一通り見るのに今年は大分變化がある、即ちその筋一は東西の入替である、力士の異動について見ても三役を除いては協會としては隨分思ひ切つた事をしたあとが見ゆる此の編成方に就いては力士間に苦情も出るだらうしその反對に喜ぶ者もあるだらうが大した事もあるまい、珍現象は舊東方の負越力士がドシ〳〵昇進せしめた事だが唯東西の均衡が益々よく取れて來つゝあるは一段好角家の興味を呼ぶ事であらう、今場所の番附は全然舊番附と言はれる例によつて東西を許して見る新東方は相變らず各部屋の聯合軍で太刀、鳳、朝潮を始め今が盛りの油の乗りきつた顏が揃つてゐる所へ新進の紅葉川、𤢖島、千葉崎、琴ヶ浦等が新に入幕したので

■益々堅實を　加へて來た上に老朽と申すべき鶴渡り『千年川、土州山、若島(寒玉子改名)柏戸など揃ひも揃つて一癖ある連中なのだから面白い、伊勢の濱朝潮の入替り大戸平の入枚躍進して關脇の榮位を占め玉手山が二つの勝越しながら前場所奮鬪のため再び三段に入つて小結となつたのは當然二枚遊びで五つと

■七ツの勝星　を持つた黒瀨と眞砂石の何れが上位に坐るかと思はれた結局黒瀨が七枚飛んで筆頭となり眞砂石が八枚飛んで二枚目に据わられたのは眞砂としては歩が惡いが前場所十日目に兩國との立合ひに汚ない所があつたものと認められたものだらう、大蛇潟が大纒と改名して四枚下つて三枚目に落されたのは致し方が無いが

■却つて働きい　ゝだらう大錦を屠つた浦の濱が六枚落されたのは十日間を通じて下らない相撲をとつた結果かとも思はれる、石山が星の上では出ず入らずでありながら四枚下げられたのは敢へて下から押されたばかりではなく協會に手加減があるやうだが氣の毒な事だ、此の外昇進の刀士は𤢖島の六枚千年川、紅葉川の各五枚柏戸の三枚土州山鶴渡りの各二枚で八甲山が十三枚鳴門洋が十一枚

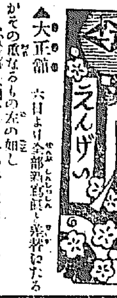
■蹴落された　のを始め大鳴門若島が五六枚落された幕下陷落は全休の明に稻の穂の兩人で新入幕は千葉ヶ崎、琴ヶ浦の兩人である新入十兩は大岬、瀧瀨川、三松磯、鎭西山の四人である新西方は依然として出羽の井筒聯立内閣で馬鹿に元氣な若手が居るかと思ふと殆ど問題にならぬ

■老朽がゐる　大錦から源氏山位までが前者で近江富士、紫雲龍大の川改め君ヶ濱四海波龍ヶ崎等が後者に屬する、西の海の正横綱、栃木山の關脇は順當と見ねばなるまい、對馬洋の張出しは之れも是非無し綾川の四枚となつたのは同情に値するが之れも是非無し今場所病を押して奮鬪を望む、小常陸一ツ負越しの君ヶ濱二ツ負越しの梅川の四枚進んだ

■返り咲きは　目出度く宇都宮の二枚昇進は頭が支へたとは言へ三番負越しの岩木山が二枚昇つたのと比べては運が惡い、出ず出らずの逆鉾が入枚躍したのは珍といふより運がいゝ今度の新西方では一體に負越しながら昇進した者の澤山あつたのは往年の舊西方と同じ理法である龍ヶ崎は陷落はさせまいと思つたが果して

■張出された　のは長く幕内に止まり曾ては三役まで入つた關物だらう、陷落力士は金敗の朝綠、稻妻嶽、玉の川の三人で代つて入幕は一港、駒泉、大門岩等新十兩は玉柳、花の山、福柳、紀の川、大眞等である

●石塚嘉二夫人　訴訟代理人石塚嘉二氏夫人幸子は昨年八月來大阪府下西宮に病氣療養中なりしが客臘廿九日廿九歳を一期とし同地に死去せり因に來る八日午後四時永樂町西本願寺に於て葬儀執行の由



▲大正館　六日より全部差替へ新寫眞にて尚其の主なるもの左の如し　小寶傳太利ボレンボの各入替、滑稽ピル君のパン製造、(實劇)ソーン嬢の就職、(泰西人情劇)選擧戰全三卷、新劇吉田御殿
▲壽座　中村芝翫一座七日八日兩日の替り狂言は前小三金五郎中幕遮職肥木村重成切名作や小刀鍛冶人形なり
▲御成座　浪花節鏡山一行にて七日の替りは大和錦桜なり
▲稻荷座　浪花節竹川馬生一行
▲浪花館　東京落語柳連雷門助六一行
▲壽館　浪花節東洋軒雷右衛門一行

▲政務總監邸に年賀に行つた宇佐美長官、名刺交換會席上即吟とあつて、『元旦や酒を燗する大神眼』更に四回目の巳年を迎へてとて『巳の年を四度迎へて又こゝに芽出度祝ふ今日の初春』▲そこへ遠藤秘書官が飛入りして『巳の年を四度迎へてまたこゝにとぐろを卷いて酒を飲む哉』とあるだらうから——▲傍にゐた長經されてはいろ〳〵秘書官にも都合が悪く四十九歳だなど〻思ひ違ひでもかりだから念のため確にこゝは越したばる但し秘書官は而立を二つ越しただけある▲そこで遠藤秘書官の巳年を四度迎へて又こゝに南山の下をのら〳〵とする』それを承て『のらくらと生れたからはのらくらと死ねれば浮世異にのらくら』と素空總監が一笑される▲最後に『野良、倉の二つ忘るな諸人よ』といふ上の句を誰かと歸むと宇佐美長官が取り敢ず『今日の芽出度き酒に醉ふとも』とつけて芽出度く閉卷

郵送紙價改正

新聞用紙及印刷諸材料暴騰に付全鮮各新聞社聯合大會の決議に基き大正六年一月より一ヶ月分新聞代五錢を値上げ致候就ては郵便單送新聞代金を今後

壹ヶ月分(郵税共)七十錢
三ヶ月分(郵税共)二圓
六ヶ月分(郵税共)四圓
壹ヶ年分(郵税共)八圓

に改定仕候尤も前記計算は前金御納入に限り申候間左樣御了承被下度上謹告仕候也

大正六年一月五日
右御願
合資會社　京城日報社

社告

京日案内廣告料金左之通り改正し大正六年一月一日より實行仕候
番外　五行一回　金前壹圓
普通　三行一回　金前五拾錢
匿名一回毎に五錢增し無割引

京日案内

普通五十錢一回前金　番外一圓一回前金　匿名一回毎に五錢增無割引
△申込後中途掲載中止の節は料金返戻せず

普通
●店員入用　年齡廿歳以下商業學校出身者希望者は履歴書送附あれ但確實なる保證人二名　仁川島居商行5
●融通　月收の御方へ極秘信用便宜立替御報伺又は御來談　京城大和町三の三二(柄澤前)起木屋5
●寫眞技師助手至急入用　龍山驛前獨立軒　樋口寫眞舘8
●破産度　醫學生多年經驗あり市内地方不問病醫院へ(給不望)(姓名在社)10

番外
はねつぎ　うちみくじき　一切の治療御依頼に應ず　明治町　柔術道場1
京城春川間　乘合自働車　賃金片道四圓　京城發前八時　春川發前八時　京城水標橋通り　京春自働車商會　電話武壹參八番　支配人松田壽男2
南大門通一丁目　京城春川間行自動車貸金片道四圓毎日午前八時卅分出發　電話二一九番　廣橋自働車組4
恩給年金立替　利子年一割　即時取引退隱料一切千圓以上別契約　京城櫻井町(大正館向)　元祖　博多屋本店7
再診療開始　患者各位の希望に依り六日より約一ヶ月間再診療開始す　京城長谷川町安東病院内　肛門病注射專門醫院9
●朝鮮語科　●英語科　新學期三ヶ月修業各級補缺募集　南大門通『漢城銀行向ひ』京城音年會11

謹賀新年

靜養中年賀缺禮
兵庫縣住吉　關屋貞三郎

喪中に付歳末年始缺禮仕候
吉野太左衛門

寫眞
寫眞出張撮影　寫眞銅版　亞鉛凸版　設備完全技術優秀を旨とし御需に應ず迅速と可成親切　京城日報社　寫眞製版部

新任府尹楠野俊成氏歡迎會開催致度候條御賛同相成度此段得貴意候也追而出席御希望の方は七日正午迄に商業會議所に申込まれたし

左記
一開會　一月八日午後五時
一會場　八阪樓
一會費金參圓以上　當日御持參の事

大正六年一月六日
發起人
櫻井小一
永井松次郎
奥田貞次郎
稻田勝彦
鄭致國

醇良清酒　白鶴
仁川本町三丁目　增本酒店
電話一〇九番　振替京城六一九番

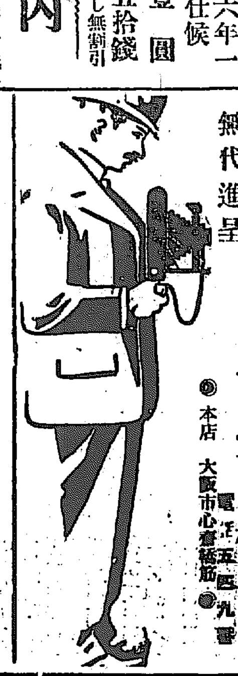
最も安價德用の無煙煉炭

炭界活躍
復又た暴騰せるも
官營平壤無煙煉炭は
此際絶對に値上せず

小賣
ピッチ入 一ッ穴(千三)　一噸(百個) 拾壹圓七拾錢
粘土入 三ッ穴(千百)　一噸(個) 九圓七十錢
山東無煙塊炭
卸賣一噸十二圓　小賣十三圓五十錢
京城古市町　電話九四一　苫米地商店

寫眞機目錄
(三錢切手封入)
無代進呈

京城南大門通三丁目
上田寫眞機支店
電話五五九番
◎本店　大阪市心齋橋筋



謹告

各位も已に御承知の通頃日の石炭市況は實に未曾有の盛況にして市價は日一日に暴騰を來し殆んと底止する處を知らざる狀勢に有之候も此際我々は可相成的値上を不致して平素の御引立に相酬度存居候處又々本社より第二回値上の通達有之大勢止むを得ず本日より左記値段に改正仕候に付何卒事情不惡御思召被下乍此上御引立御用命之程奉願上候
右不取敢謹告仕候也

一撫順塊炭半噸以上(持込)
壹噸に付　金拾貳圓七拾錢
一同小賣壹叺以上五叺迄(持込)
壹叺に付　金壹圓拾錢
一撫順切込炭半噸以上(持込)
壹噸に付　金拾壹圓七拾錢

大正六年一月一日
南滿洲鐵道株式會社
撫順炭販賣業者一同

怒濤の月

四十一 小林蹴月作 武内桂舟畫

密謀 『八』の二

「松崎、お前は不贊成だと言のか」權一郎は、甚からず不興の態であつた。

『いや、必ずしも不贊成とは申しませんが人間一匹盜み出すと云ふのは、芝居や小說で見ると譯がないやうですけれども……それに第一、紳士の取るべき手段として、餘りに惡辣過ぎは爲ないでせうか』

『なに、餘りに惡辣過ぎるツて？おい、松崎、お前にも似合はん事を言ふね。利益の前に惡辣も卑劣もあつたものぢやないんだ。國と國とを奪ひ合ふ大利益の爲には、幾百萬の生靈を犧牲に供して、現に歐洲では三年來の大戰爭を遣り通して居るぢやないか。お前は元來事業家の神髓と云ふものを心得て居ぬから駄目だよ。いや、事業家ばかりぢやない、今日の官吏だつて、代議士だつて、自己の懐本意でない人間が幾人あるものか。何だ、高の知れた小娘一匹……盜み出すといふ語は少し荒つぽ過ぎるかも知らんが……手を廻はして、連れ出して來る位の事は、惡辣も卑劣もあつたもんぢやないんだ、それとも、お前の方に、それ以上の高尚な簡略な方法があつて言のか』

松崎の惡辣過ぎると言つた一語が餘程權一郎の癇癖に障つたと見えて權一郎は、眼の玉を光らせながら、眉根に皺を寄せて、責め付くるやうに松崎を罵つたのである。

『はゝゝ、御機嫌に觸れましたらお詫しますが……貴方の御意見通り首尾好く絹代さんを連れ出すと爲ましても、男爵の執心が何くまで彼の女に掛つて居るものと爲れば是非共草を分けても探し出して來い。左もなければ、一切事業上の連絡も個人としての交際も絕つて了ふと、斯う逆捻に出られた場合は、什うなさるお考へです』

松崎も然る者である。腹では、又大將のお株が……と、茶に爲て居ながら、理窟は何處までも理窟として並べる。

『無論、その時はその時で……』此處までは勢ひよく言ひかけたが、權一郎も鳥渡その後の思案に支へた。

『その場合に若し、男爵のお氣に召すやうな清淨無垢の生娘でも探し當てる事が出來れば好う御座いますが此方ばかり何ぼ適當だと考へても、男爵の方で鼻先で待つて居られたら結局虻蜂取らずに成て了ふ譯なんですから。私は、その點も大いに氣遣つて居りますんで、つい……』

『然う言へば、それも然うだが、何にせよ、此方に取つては、浮沈に關する場合だからね。萬止むを得なければ、又お前から紳士にあるまじき事を言ふと、冷笑かされるだらうが、俺は、自分の女房でも何でも、男爵の屋敷へ差出して、詫入るまでの事さ。』

權一郎の心事は、實際是ほどまでに陋劣なのである。勿論、金づくで贖ひ得た女房であるから、それを又自分の利益の爲めに應用するのは、敢へて不思議がないと、信じて居るのかも知れない。

『そりやまあ、口で被仰る丈の御冗戲でせうが、絹代さんの代りに、奥樣がお上りになつた所で、倘更納まりの付くべき筈がないでは御座いませんか。』

『納まりは付いても付かんでも、權一郎の眞實を男爵に示す手段として決行するんだから差支はあるまい。』

『旦那、それでは貴方、眞面目でその事を被仰るんで御座いますか？』

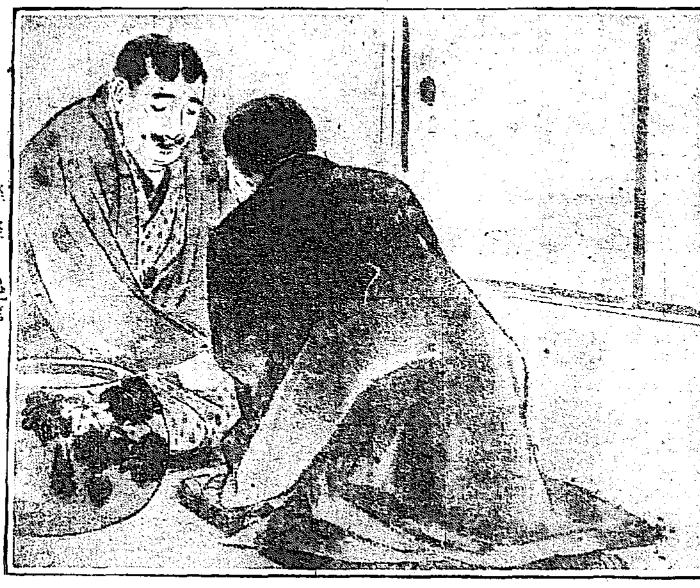
豈夫にと思つた松崎も、權一郎の語調が案外眞面目らしいのを見て、流石に一驚を喫せざるを得なかつたのである。

『眞面目ともさ……背に腹は代へられんとの喩へがあるぢやないか。』

『本統で御座いますか、旦那、そのお口に乘り込んで申すんぢや御座いませんが、奥樣の葭町時代には、花泉の御前も、可なり深い御關係があつたものらしく承はつて居りましたがそりや眞實で御座いませうかね。』

『大眞實さ。だから、俺も萬更縁の無い事を他の外へ出すんぢやないんだ。お前も既に、その邊の消息を知つて居るなら、倘更好都合ぢやないか。兎も角、絹代を先へ盜み出す手段を講じて吳んなさい。』

密議の進むに連れて、主從の意見は、漸く一致の境に達して來たやうである。



□年賀狀の句

居蘇祝ふ孫娛りたり 合水
開拓の胸皆鳴れる御慶哉 不耳
碌々二十貫三十歳の春 小野賢一郎
ものゝ芽の俄に伸びし夢始め 靈雪
首途めて又も凝こけぬ初烏 空蠑
淑氣自ら雪の遠山紫に 靜軒
二人おろかむ初空落ちつく 野閑池
閑船に横ふる大蛇の飾 玄花
輪飾にかくも色づく柱かな 稔黃子
雪遠山に旭輝く今朝の雪 大塊
我が淑しき座右の水仙と南天と 浮碧樓
初日さす廣場我影うごき 負青大

○除夜徹宵吟 俳諧散心第二十一回
餅の日昇ぎ込みたる人數かな 浩一郎
初空や殊に秀でて松老樹 同
若水を汲むや星降る石井桁 同
煤拂ひ鷄舍に及んで終りけり 田打夫
除夜の鐘聞きつゝ歸り鎖りけり 同
家訓揭出に福壽草床に置く 同
餅筵のべ搗きてはくゝ運ぶ 同
しとやかに帶ほどく女禮者かな 耕伯
鍬初や古提灯の紋所 同

◎二葉會新年俳句會 三日午後六時より若草町小川越絲氏方に於て二葉會の新年俳句會を催ふせり會する者無二庵帝史宗匠外二十三名席定まるや宗匠より即吟の題が出て五撰の結果は左の如し

春の雪
春の雪温みあるかと思ひけり 龍齋
海はかり殘して春の雪景色 龍山
椎の葉に瞬間白し春の雪 不誠
淡雪の雫や梅の蕾ほさ 文江
春の雪淡きは己が命かな 玄對
相合の傘に興わり春の雪 京姫家
積らぬを誇り顔なる春の雪 玄對
山の被見せける春の雪景色 寒水

譽く壽命や春の野佛 同

松の内
何事もめでたくと松の内 玄對
億利さへ御袴召すや松の内 讃水
惡辞の付さし羽織や松の内 同
國威宣揚頭れし國旗や松の内 不讃
丸髷も羽子つき遊ぶ松の内 寶山
酔を醒め醒めては讀ふ松の内 實姫家
老幼の心も若し松の内 同
遊ぶ暇有てたしなし松の内 文江

萬歲
萬歲や世は楓樹の春心地 京姫家
萬歲や顔の晋も君が御代 同
萬歲に顔取られたる小家哉 貧山
萬歲の眞似して壁の笑ひけり 不誠
萬歲の狡に似たる笑顔かな 靈水
萬歲や舞ふも歌ふも國の春 京姫家
萬歲や長生殿も撫からず 文江
面白や顔赤なる御萬歲 玄對

◉信用ある東京三金の靴 東京市芝區愛宕下町三金高等靴店にては戰亂の影響にて殺到せる注文に應じ各地店の三割乃至四割以上値上げにも拘らず同店は豫て貯へある材料の持合せあるため各地より多數の注文を受け日夜多忙を極めつゝありと因に希望者にはハガキにて申込めば華見本附最新目錄を進呈する由

新刊紹介

▲悲しみの日より「深水し子作」 春日きみ、幸福への道、松葉杖なつく女、疾風吊たそかれの家の人々、白鈴のなかに、三十三の死、かなしみの日より壞、赤ちやんの十篇を收む新進女流作家として漸く其の藝術的才能を認められんとする著者の最も得意とせる作のみにして婦人特有のセンチメンタルなる觀察の裡に一味の優しき溫情と創作的努力の跡とを見るべし（五十錢 東京市日本橋區濱町二の一二須原屋啓興社）

▲新國民（新年號） 時事解說巳の鐵蛇の年、不可思議の蛇、鬼軍營、秘密の地下街、南洋へ愉快なる讀物多し（十五錢東京市神田區駿河臺袋町一六大日本國民中學會）

▲戰友（新年號） 大山元帥を憶ふ（山縣公）歐洲戰亂畫報、森田留長人紹、體操の新舊（山田戶山學校長）其他在營兵及在鄉軍人向の讀物を收む（七錢東京市麴町區飯田町二の五三帝國在鄉軍人會本部）

▲帝國青年（新年號） 大正六年の新形勢（伊達主從）歐洲戰爭の敎訓（秋山少將）軆工から首相まで其他青年の發達に資すべき讀物を收む（十錢東京市麴町區内幸町一の四）

▲衞生新報（新年號） 春豪勝利（松下紀一十田那三郎）岡村龍彥、木下杢太郎其他諸醫家博士の衞生に關する通俗的讀物を收む（十六錢五厘東京市小石川區宮下町一二五社）

▲ツーリスト（新年號） 朝鮮旅行に關する興味ある事項を和英兩文にて記したれば旅客並にホテル業者には好個の參考書たるべし（定價不詳東京鐵道院內ジャパン、ツーリスト、ビユーロー）

ふいれき 自宅療法
腋臭ぐるぐるわきがに劇効ある弊院創製の本劑は主成分獨特の醫療作用は既に帝大醫博士の保證する處三錢郵券封入申込者へ詳細すべて三錢切手十枚送れば試藥治療書進呈す
◎東京市麻布本村町一二六 平井博濟院

宮內省御用達
謹賀新年
尙は本年も相變らず御愛用御引立奉願候
天下一品
最上醬油
日本及米國政府登錄商標
千葉縣野田町（電話五番五〇番）
釀造元 茂木佐平治

闘球盤
紳士も婦人も高尙で面白い大流行の快活の遊戲はコレ
發賣元 東京 大一商店
朝鮮代理店 京城本町二丁目 シノサキ商店 電話一三〇三番
定價表は御申越次第贈呈す

新刊圖書御案內
書名 著者 定價
◉系統的國語の習 水野 平次 一、二〇
◉英國經濟的男女 田川 美哉 一、〇〇
◉默阿彌脚本（南國順禮記） 一、〇〇
◉支那貿易案內 長谷川彬 三、五〇
◉商業寶典（上） 小林 行昌 三、五〇
◉簡易生活百話 西村 才介 一、六〇
◉英語獨習辭典 佐久間信恭 一、八〇
◉民事訴訟法論 岩田 一郎 三、〇〇
◉刑法論 岡田 朝太郎 五、〇〇
◉ロダンの言葉 高村光太郎 二、五〇
◉流轉のはじめ 小杉 羣平 三、八〇
◉大正青年と帝國の前途 德富 猪一郎 八、〇〇
◉高等文官試驗問題集 磯谷 六、六〇
京城本町二丁目 京城 日韓書房（電話二一八三六番 振替京城四五四番）

謹賀新年
宅正宗
品質第一
宅合名會社の銘釀酒
光 武
特約販賣店
仁川本町四丁目 田中作商店
仁川花町 上城商店
仁川新町 橋本商店
京城本町二丁目 藤田商店
同 明治町 牧野豐田商店
同 南米倉町 村田商店
同 龍山元町 藏城商店
開城南大門外 鈴木商店
鎭南浦三和町 松浦商店
安東縣四番通 龜屋支店
水原城內 平田商店
大邱錦町 金谷商店
裡里 古川商店
群山本町 中柴商店
木浦 西野商店
同 佐藤秋藏商店
釜山西町一丁目 福田酒造場
清津明治町 矢野商店
羅南生駒町 矢野支店
釀造發賣元 宅合名會社

消化と毒けし 仁丹
金言 心に誤りなければ人を畏れず（武田信玄）
正月の迴禮に宴會に觀劇に 仁丹（ジンタン）離されぬ

イケダ小兒病內科醫院 池田季雄
京城三越吳服店前へ入る旭町四丁目 電話（醫院一二三四番 自宅八八〇番）

日韓書房
新版報告
長田幹彥著 白紋集 定價九十五錢 郵料十錢
田山花袋編 一兵卒の銃殺 定價一圓 郵料十二錢
河竹繁俊著 河竹默阿彌 定價一圓六十錢 郵料十二錢
長田幹彥著 小蔦 定價四十錢 郵料六錢
泉鏡花著 幻の繪馬 定價四十錢 郵料六錢
京城本町二丁目 電話一一五・振替五四一番

一般法律事務を叮嚀迅速に取扱ふ
尙ほ事情に依り貧困者の辯護は無報酬にて依賴に應ず
辯護士 特許辯理士 高橋章之助 事務所
京城樂園洞二〇九番地 電話二五六番
仁川仲町二丁目三番地 電話三六六番

最新刊
書名 著者 定價
◉輸入神曲 ダンテ作 古典文學研究會 二、五〇
◉同 波斯神話 土谷文明譯 一、〇〇
◉全譯戰爭と平和上下 トルストイ作 海月譯 四、五〇
◉大正の青年と帝國の前途 德富蘇峰 八〇
◉牛 岡本米藏 一、〇〇
◉杖の跡 大町桂月 一、三〇
◉探險世界の不可思議 內山舜 一、三〇
◉星をめあてに ワーレス作 松本雲舟譯 一、五〇
◉ワイルド童話集 柘榴の家 本間久雄譯 一、二〇
◉片鱗 外六篇 二葉亭譯 九〇
◉下町物語 喜多川漫夫 八〇
◉伯林夜話 小山內薰 六五
◉こゝろ 漱石 一、五〇
◉婦帝館史 三木露花譯 九五
◉町の兄弟 中島菊之助 九〇
◉ルーテル及び事業 トマス・リンゼー作 藤井武譯 一、三〇
◉ルツツオ戰悔錄 細見 石川敬應譯 二、〇〇
大阪屋號書店
京城本町二丁目（電話二〇八六番）振替京城二五七三番

▲山縣五十雄 村上唯吉共著 富の道しるべ 定價十五錢 郵稅二錢
京城太平通 振替三〇〇番 京城日報世代理部

石塚嘉弌妻幸子 豫て病氣にて內地に轉地療養中十二月二十九日死去致し同地に於て假葬式施行本日遺骨到著致し候に付本月八日午後四時太平通一丁目五十九番地石塚自宅出棺途中葬列を廢し京城永樂町本派本願寺に於て葬儀施行可致候
大正六年一月六日
山根金六郎
四方田保
大久保雅彥
朝倉外茂鐵
大垣丈夫
親族總代 友人總代

日本郵船仁川出帆
○大連行、秦皇島行
營口丸 一月十四日正午出帆
淡路丸 一月廿一日正午出帆
淡砂丸 一月三十日正午出帆
仁川海岸町十一番地 取扱店 郵船 回漕部

汽船釜山出帆廣告
門司、神戶、大阪行
○立神丸 一月 日後五時出帆
○小倉丸 一月 日後五時出帆
元山、清津、浦鹽行
○立神丸 一月 日後十時出帆
○小倉丸 一月 日後四時出帆
元山、西湖、新浦、城津、清津行
○第三琴平丸 一月 日後六時出帆
門司、宇品、神戶、大阪行
○第三琴平丸 一月 日後六時出帆
佐須奈、鹿原、壹岐、博多行
○天眞丸 毎月二日九日十四日十一日廿一日廿六日（午後十時出帆）
釜山港埋立新町 本船取扱店 大池回漕部

朝鮮郵船出帆
總運會社及社外船之補寄港地の便なり本社電話五十九番二三二番
京城南大門外支店、出張所、代理店、荷客取扱店に御照會相成度
京城荷客取扱店 松原運送店（電話一七〇番）
○全羅丸 一月十五日
○京畿丸 一月 日
○黃海丸 一月十一日
○咸鏡丸 一月 日 釜山發
門司より釜山各港寄港咸鏡北道間航路
○穩城丸 一月 日
○昌平丸 一月八日
○鐵城丸 一月五日 元山發
○昌平丸 一月六日 元山發 元山より各港經由雄基行
○盈德丸 一月六日 釜山發 甘浦、九龍浦、浦項各港寄港鬱陵島行
○江陵丸 一月 日 釜山發 南氏部港長鬐行
○迎陽丸 毎日 浦項發 長生浦方魚津寄港
○三浦丸 一月 日 釜山發 長承浦、鎭水、巨文島、濟州島各港寄港
○海州丸 ○下關丸 ○慶寶丸 毎日 釜山發 各港經由麗水行（三日目毎に一回木浦行）
○順天丸 三日目毎に 木浦發 各港經由麗水行、麗水より釜山行に接續
○慶興丸 一月七日 木浦發 各港經由濟州島行
○慶興丸 一月 日 木浦發 南方島、濟州島行（月三回）
○公州丸 一月五日 木浦發 各港經由濟州島行（東回）
○錦江丸 一月五日 仁川發 海州他各港經由德洞行
○江原丸 一月八日 仁川發 芝浦、大靑、小靑島行
○麗水丸 一月十二日
○晉州丸 一月八日 仁川發 各港經由木浦行
○全州丸 ○南陽丸 毎日午前 仁川發 江華島、喬桐島、海州行
仁川代理店 本町四丁目（電話一七二三番）
元山代理店 野口商會
京城取次店 田口回漕部
南大門（電話二八〇〇七） 河村運送店

阿波共同汽船仁川出帆
第二共同丸 一月十日入港 一月十二日正午出帆
芝罘、大連行
阿波共同汽船株式會社 本町四丁目（電話一七二三番）
仁川代理店 野口商會

大阪商船仁川出帆
○群山、木浦、釜山、下關、神戶、大阪行
○大有丸 一月 日後四時出帆
○秀吉丸 一月 日後四時出帆
○君が代丸 一月六日 日後四時出帆
○神代丸 一月 日後四時出帆
仁川海岸通三丁目五十九番 電話 杉回漕部
○群山、木浦、釜山、馬山、通營、統營行
○濟州丸 一月十六日
○安東丸 一月十二日後五時出帆
○山陽丸 一月十七日
○木浦、釜山、馬山、鎭海、長崎行
○信濃川丸 一月三日後二時出帆
○信濃川丸 二月十七日正午出帆
○木浦、釜山、門司行
○福州丸 一月二十四日後二時出帆
○潮州丸 一月十四日後二時出帆
○大連行
○信濃川丸 一月三十日正午出帆
○福州丸 一月十三日後二時出帆
○潮州丸 一月二十日正午出帆
○安東丸 一月 日正午出帆
○鎭南浦、浦鹽行（元山出帆）
○仁川、城津西湖津二寄港浦鹽不寄港
○安平丸 一月十四日後二時出帆
○宮島丸 一月二十日後一時出帆
○木浦、釜山、門司、神戶、大阪行
○大智丸 一月七日午後三時出帆
○上海、基隆、打狗行（大連出帆）
○讚北丸 一月十一日前六時出帆
○基隆丸 一月二十六日後四時出帆
大阪商船會社仁川支店 電話二番二〇五番
京城切符發賣所 內國通運會社支店 電話七〇八番

仁川期米
商況
▲更に上伸す
▲後場の手違
▲聖能く買ふ
▲在米堆積す